

愛の  
ロ  
ン  
ス



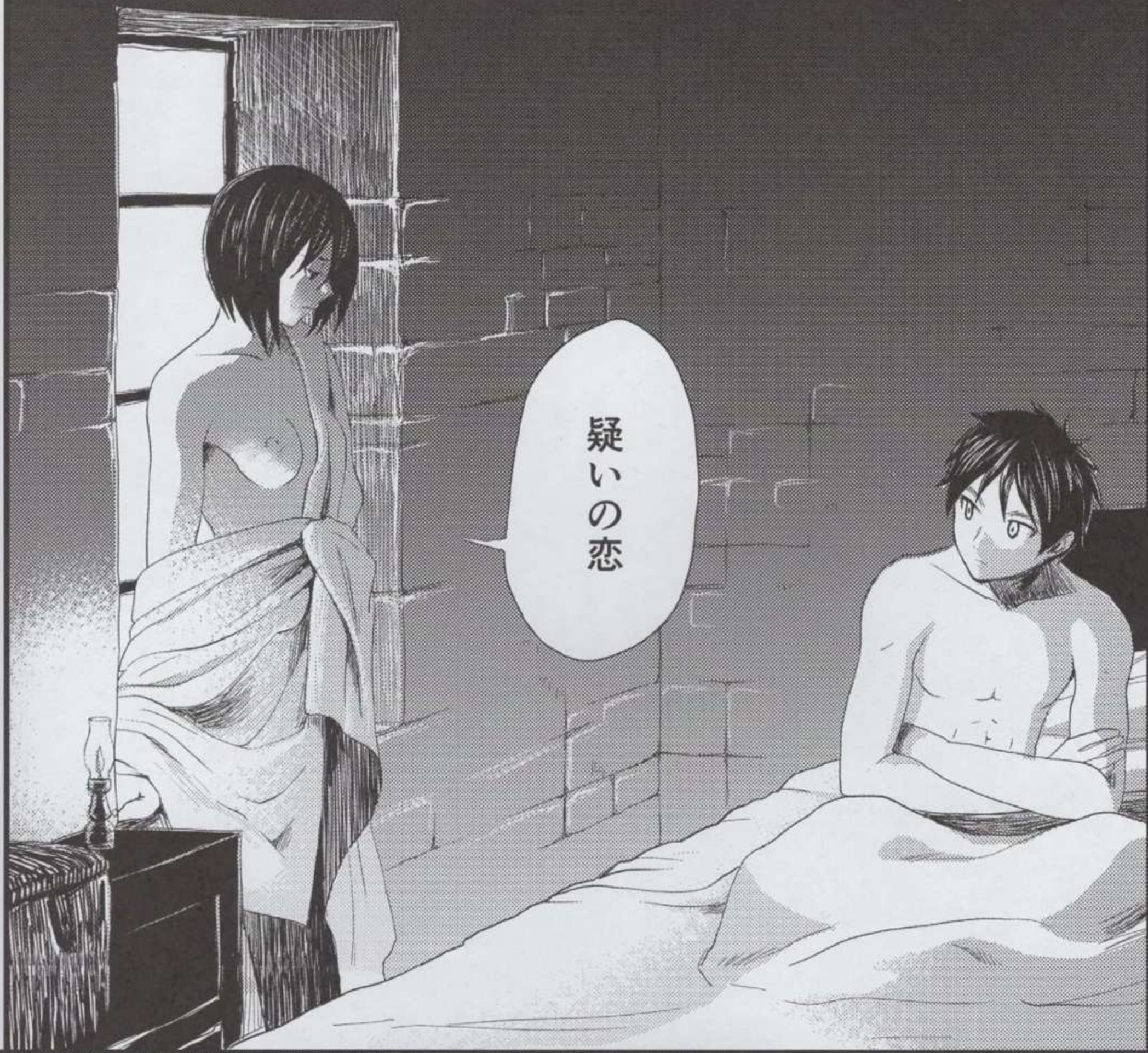
後編  
R-18

この本は愛のロマンス”後編”です。

前編と併せてお楽しみください。

■ 18歳未満閲覧禁止 ■

本書には性的な描写があります。  
原作設定の都合いい解釈などもあります。  
苦手な方はご注意ください。

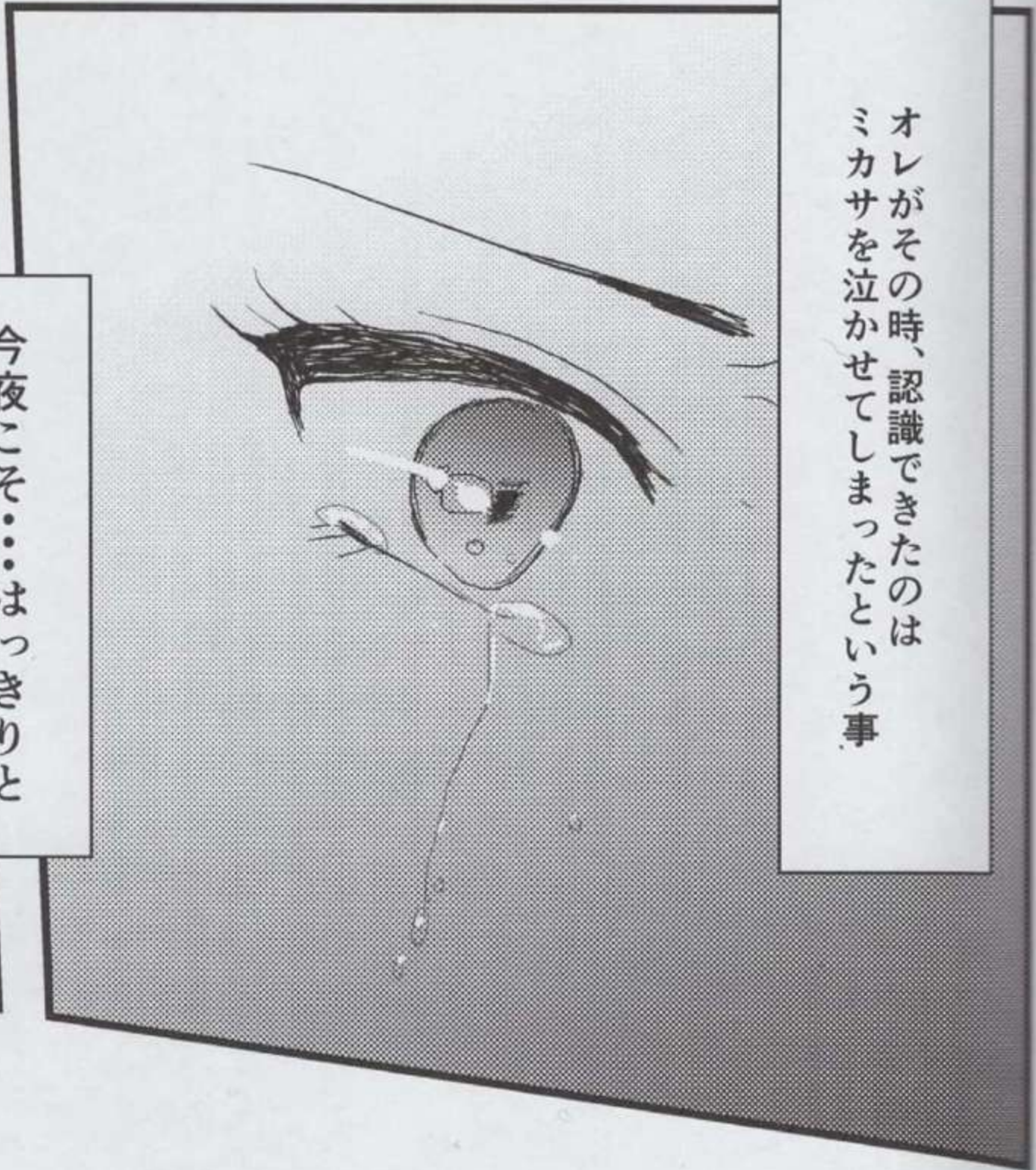


疑いの恋


——ミカサが最初、  
何を言ってるのかわからなかった

あの花の花言葉は  
一つしか知らなかったからだ





オレがその時、認識できたのは  
ミカサを泣かせてしまったという事



今夜こそ…はっきりと  
告げなくてはならない

もう、  
終わりにしよう

あの花の咲く  
場所で……



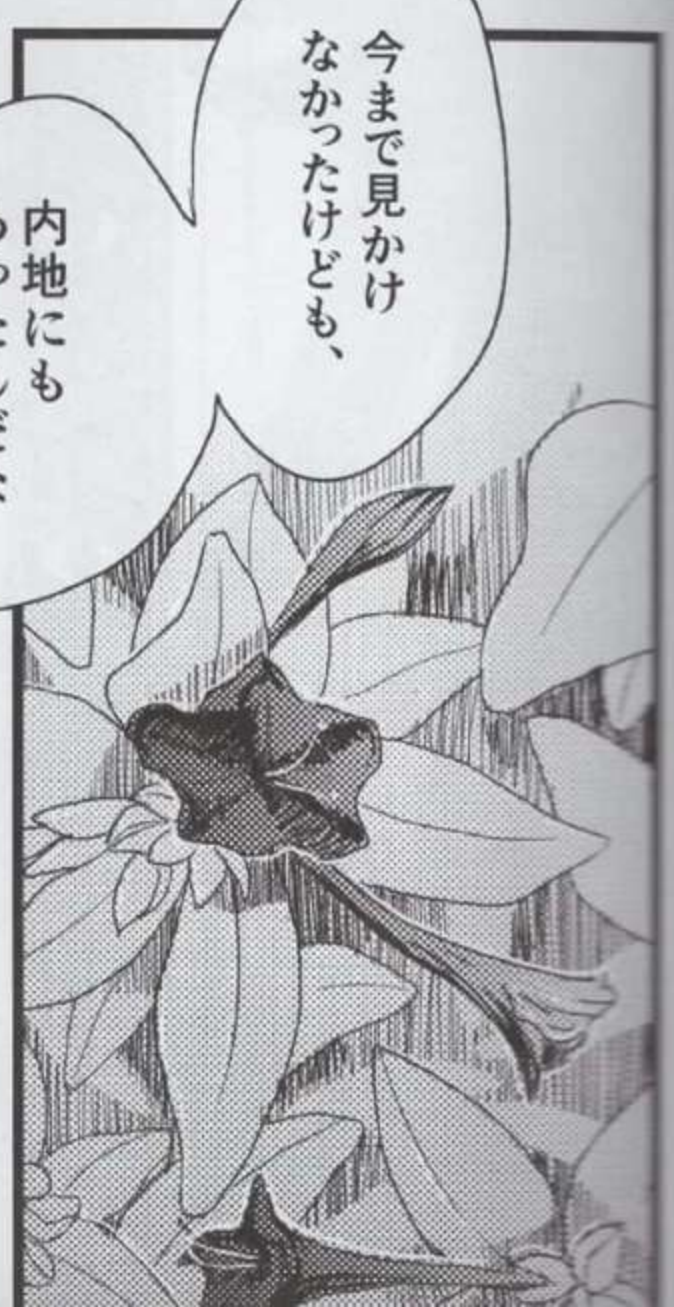
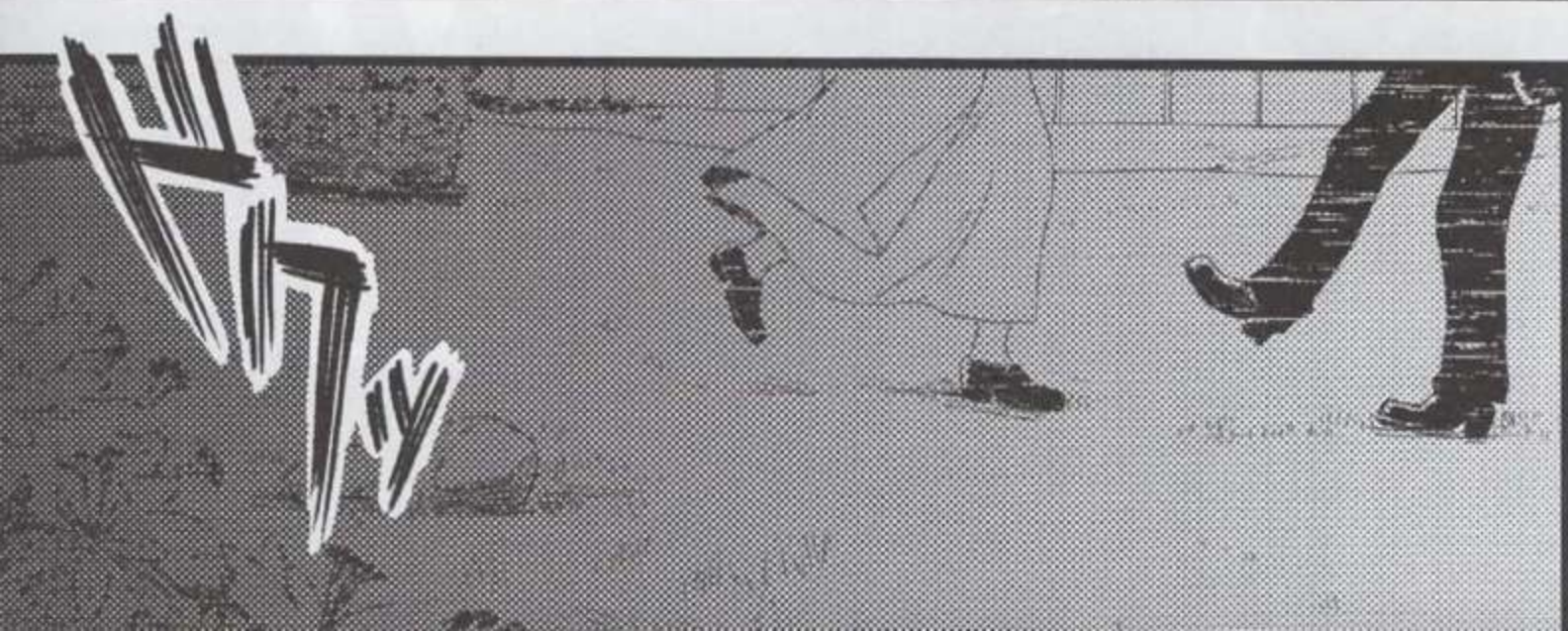
外出許可が出たから  
街の周辺をうろついてみたが

この花…

今まで見かけ  
なかったけども、

内地にも  
あったんだな

懐かしい  
匂いだ…





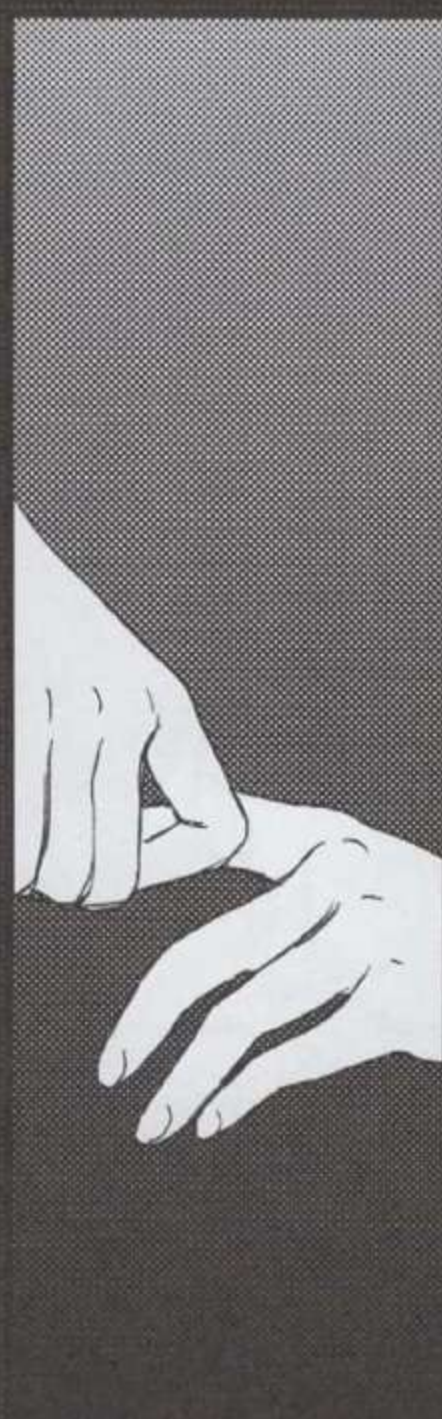
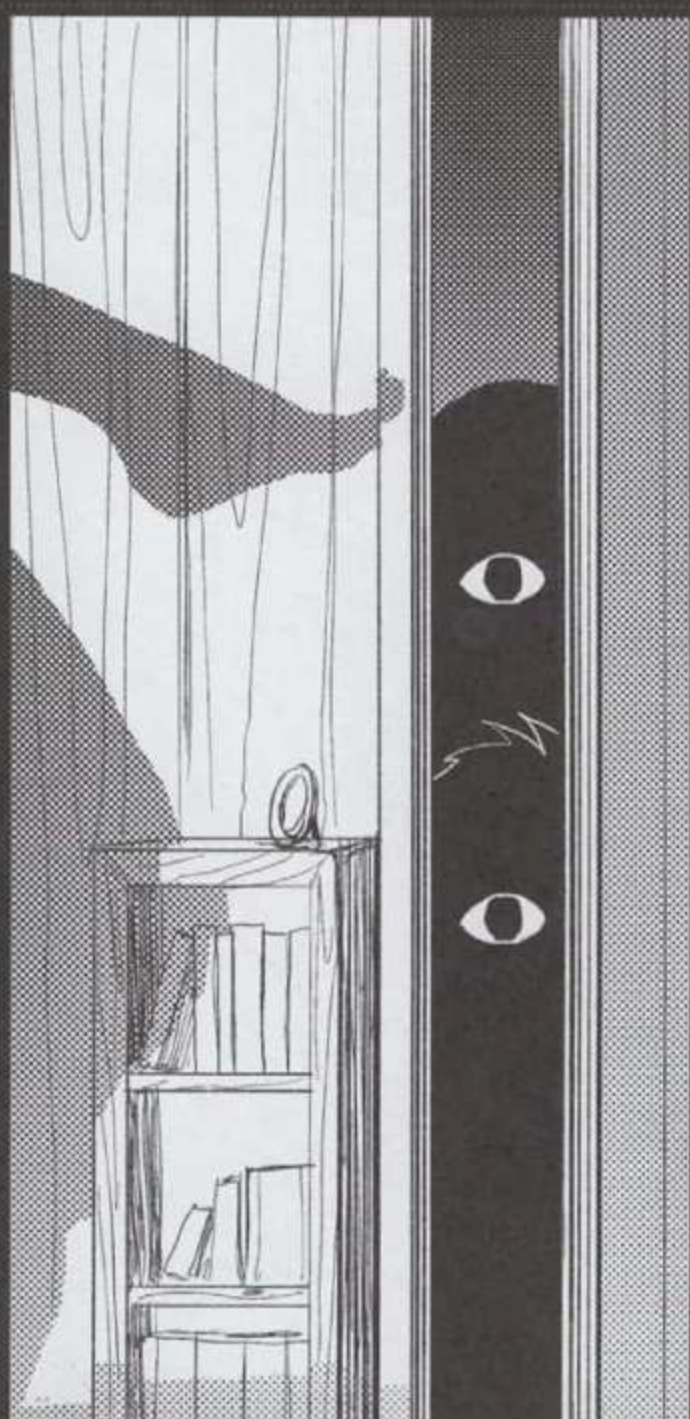
それでも、単純に好きになってしまった



もう、出逢った時からおかしかかった



あの頃の淡い気持ちは  
何故、こうも肉欲に溺れてしまったのだろうか



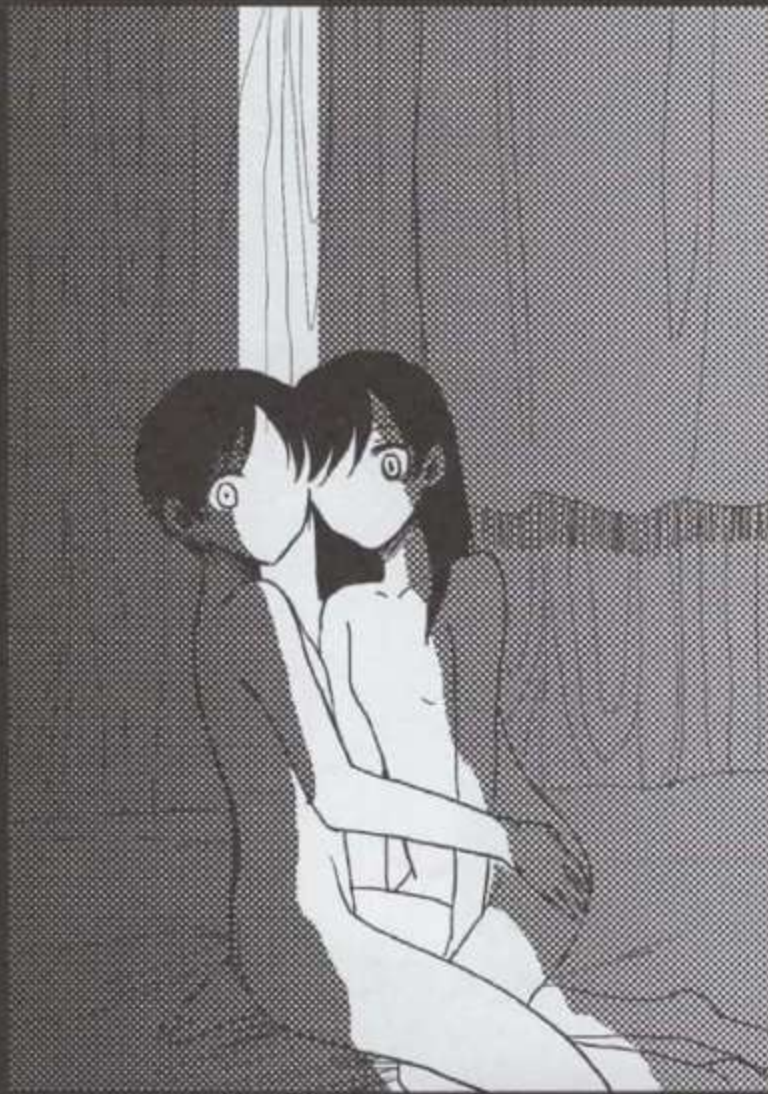
気になって気になって  
仕方がなかった



知る限りの方法で、愛そうとした

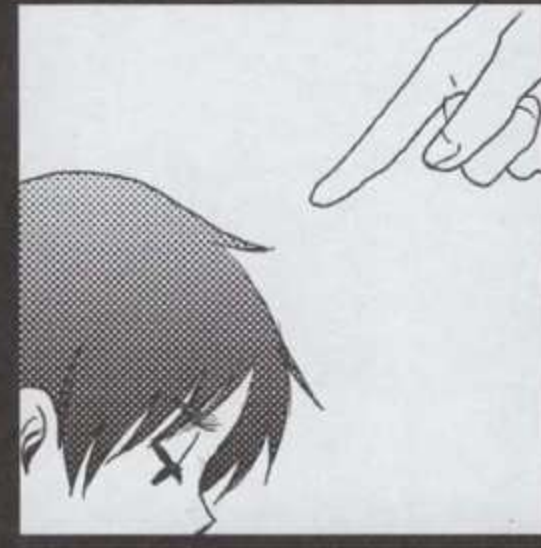


しかし、それは大人から見れば  
忌避すべき対象だった



それはいけない事なんだと  
そう、教え込まれた

罰、



罰、



罰、

禁じられれば  
禁じられるほど



ミカサへの気持ちは  
抑えきれなくなっていった

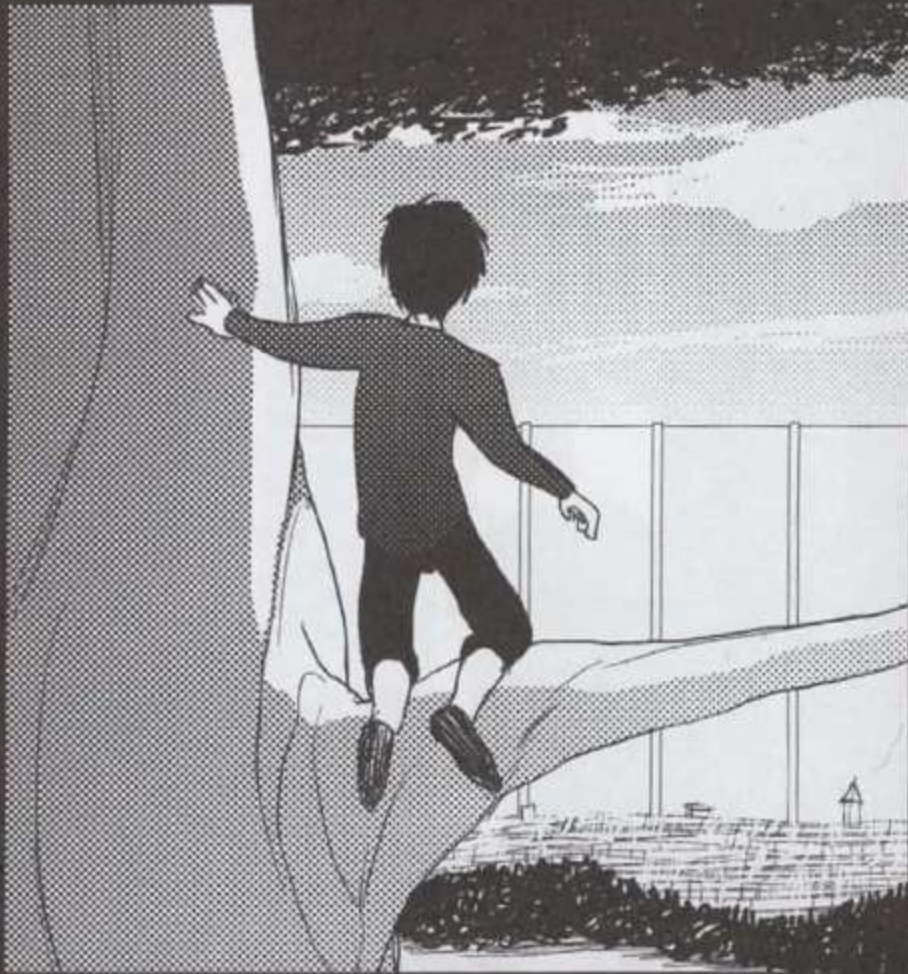


いつからか、ミカサを好きだと  
思うだけで罪悪感に苛まれた



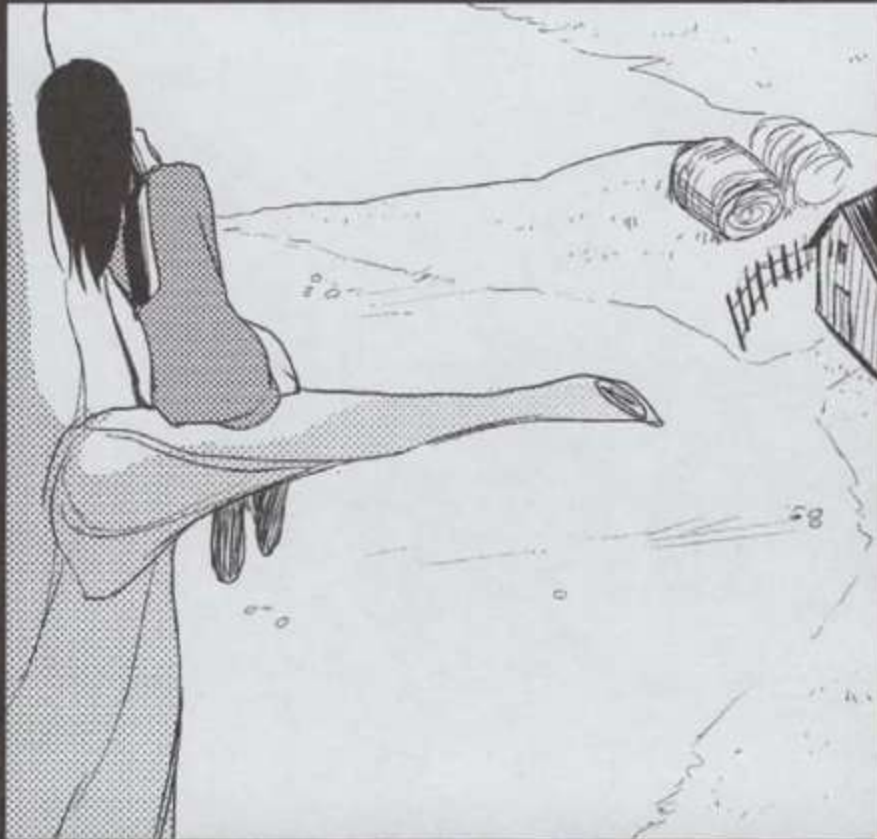


「もうやめよう」



外の世界の事を考えている時だけ  
ミカサの事を忘れる事ができた。  
だから、少しでも気をそらすために  
外の世界の事に熱中した。

大人たちは呆れかえったが  
ミカサはオレについてきた



巨人がやってきて  
駆逐することを胸に誓った。

そのために努力している間は  
何も考えなくて済んだ。

もちろんミカサの事も。



益々、駆逐する事に意識が向いていった。  
馬鹿の一つ覚えみたいに羨望した。



それでもミカサがオレから  
離れる事はなかった。

むしろ、前以上に繋がりを  
求めるようになった。

エレンは疲れているから  
私が癒してあげなきゃ

それから調査兵団というコミュニティに属した。  
多感な同年代の奴らの中で  
ミカサが傍にいてという状況は  
オレには心が乱れて仕方がない事だった。

自分の意志とは裏腹に  
ミカサを意識しすぎてしまっていた。



心の平常を保つために  
自分に嘘をつくのは必然だった。

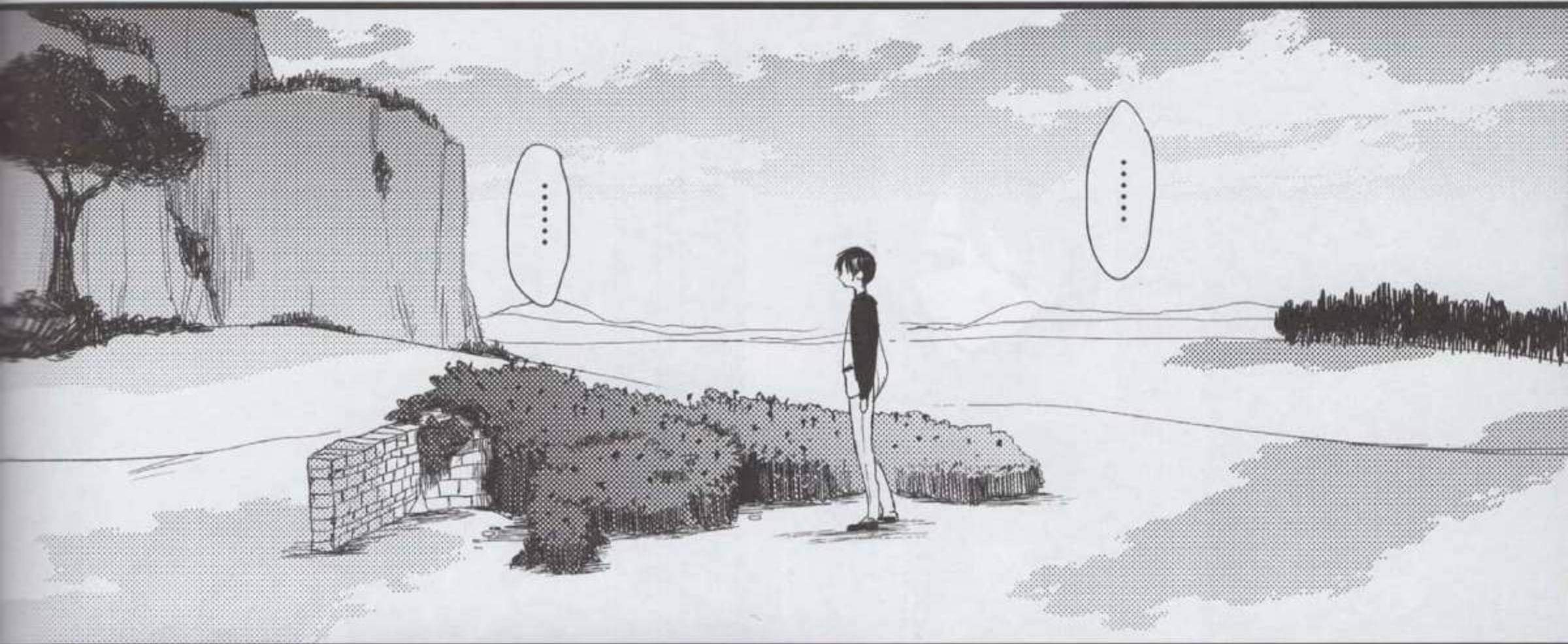
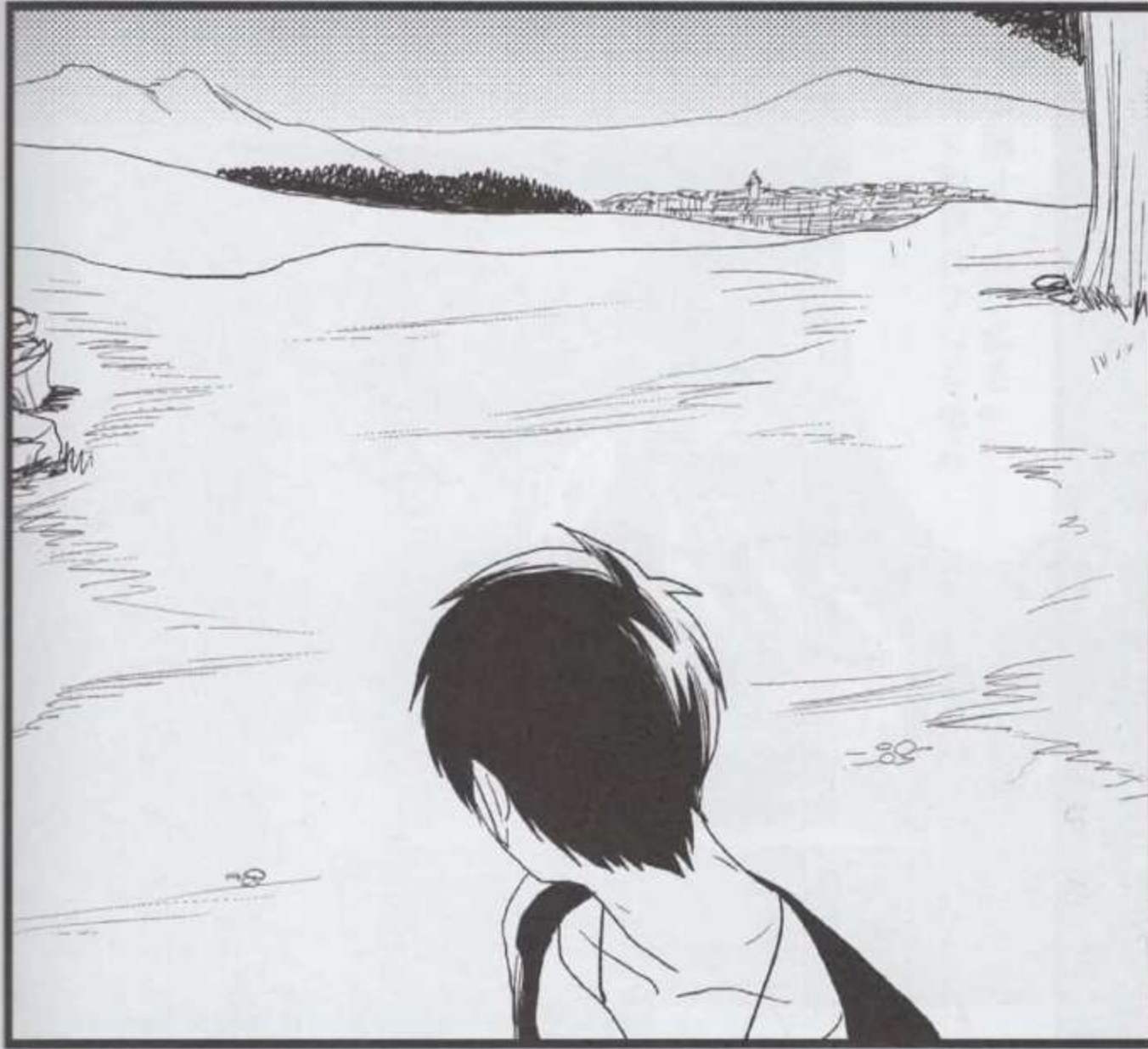
そして、その態度は  
ミカサを酷く傷つける事でもあった。

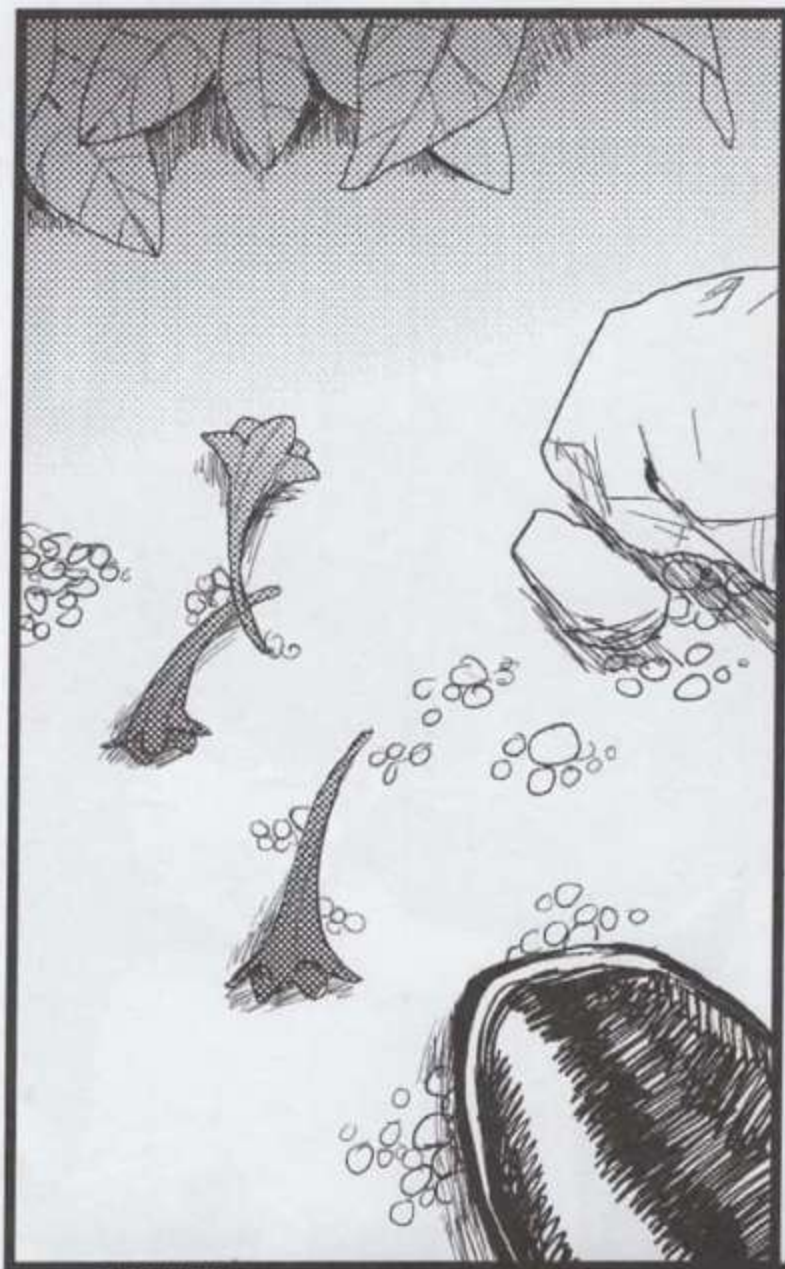


反動で、ずっと続いている  
夜の密会では  
優しくしようとするが、  
昼は冷たくて  
夜は優しいなんて  
ただのたらしじゃねーか

最低だ







どうしたら・・・  
これ以上ミカサを傷つけずに  
この状況から抜け出せるんだ



自分の声  
最低、か・・・

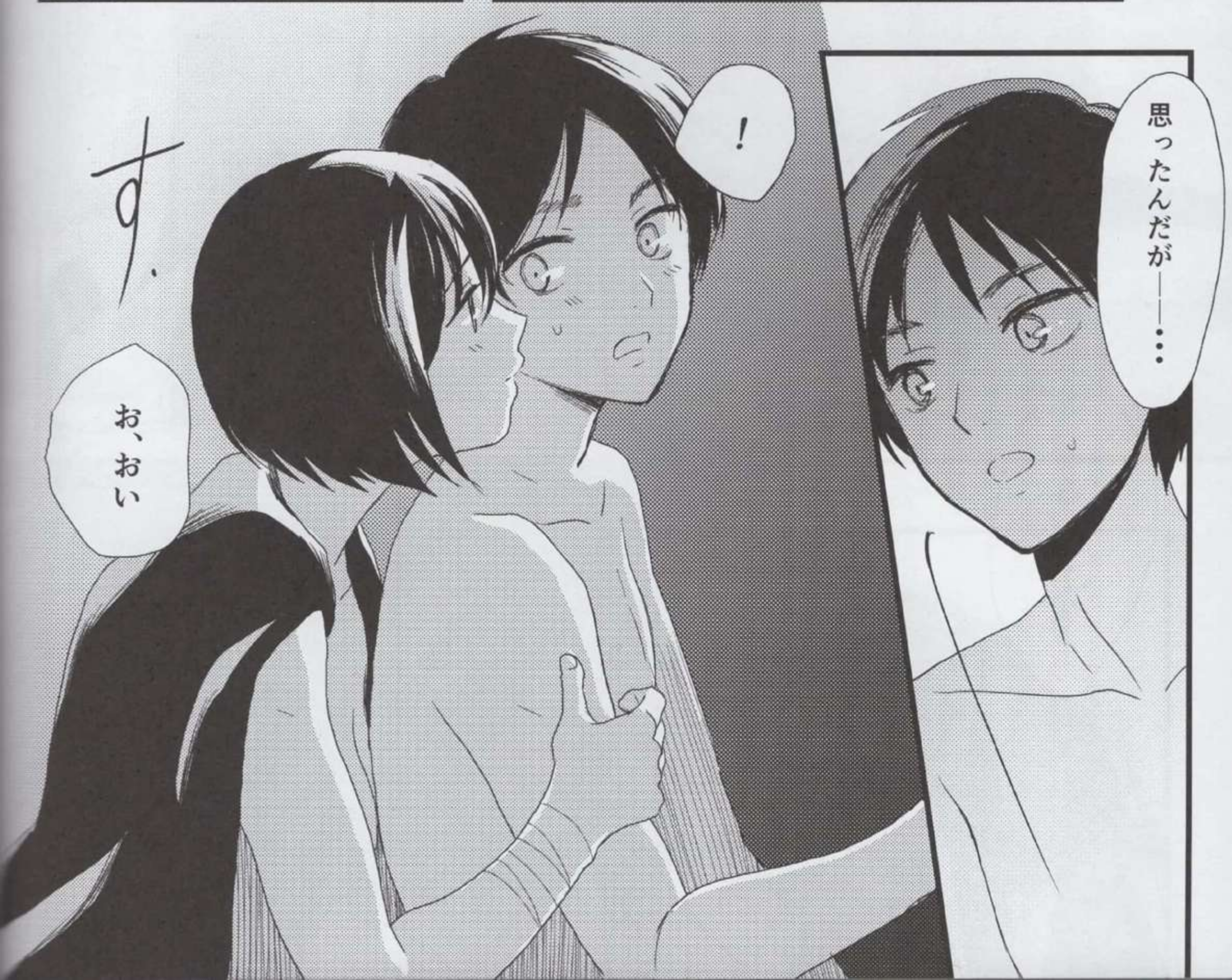


もう・・・終わりにしよう  
ミカサに伝えるか・・・？

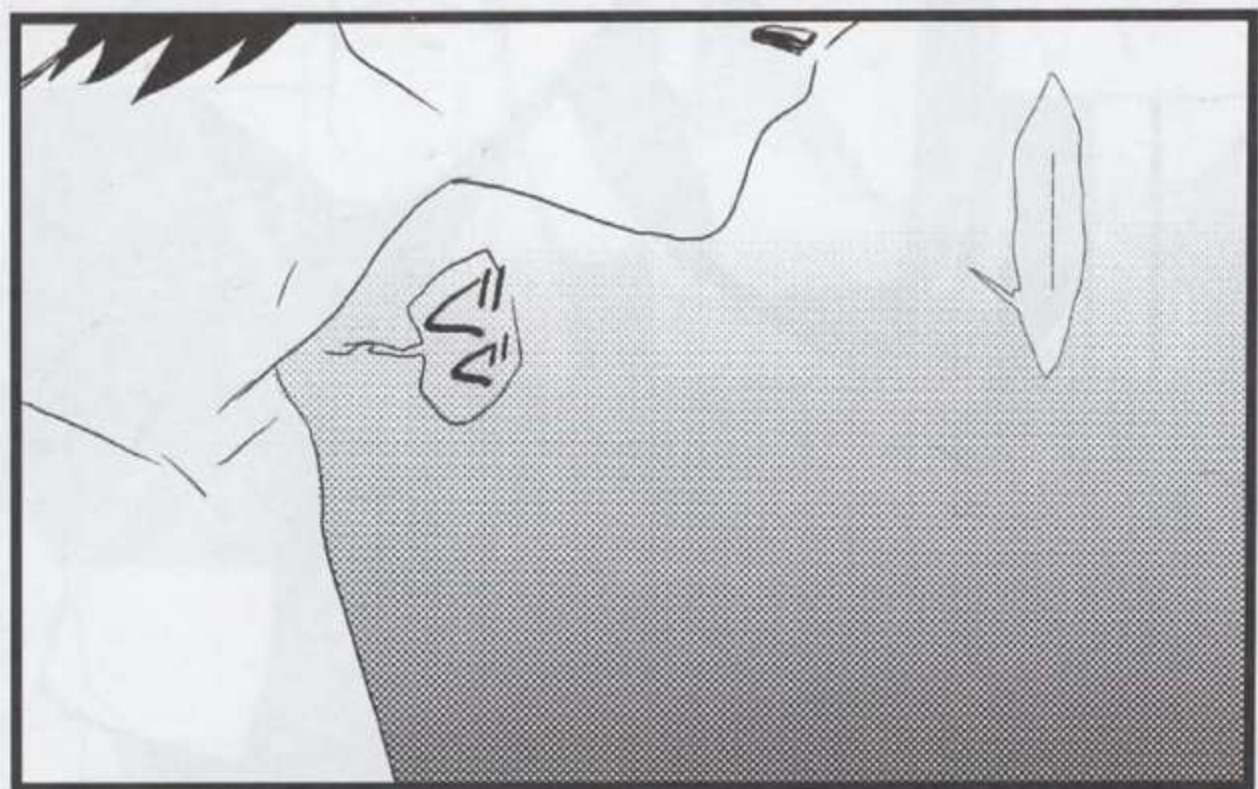
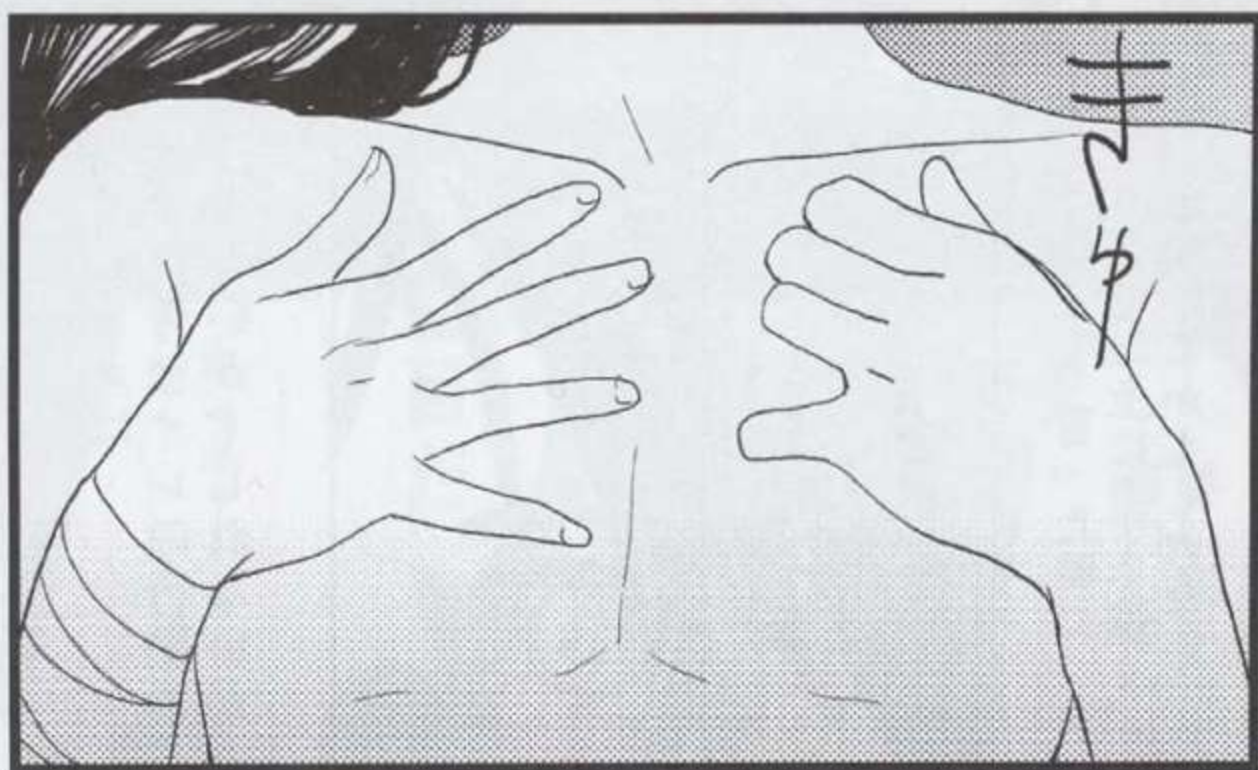
言って・・・

みるか・・・？





続けて



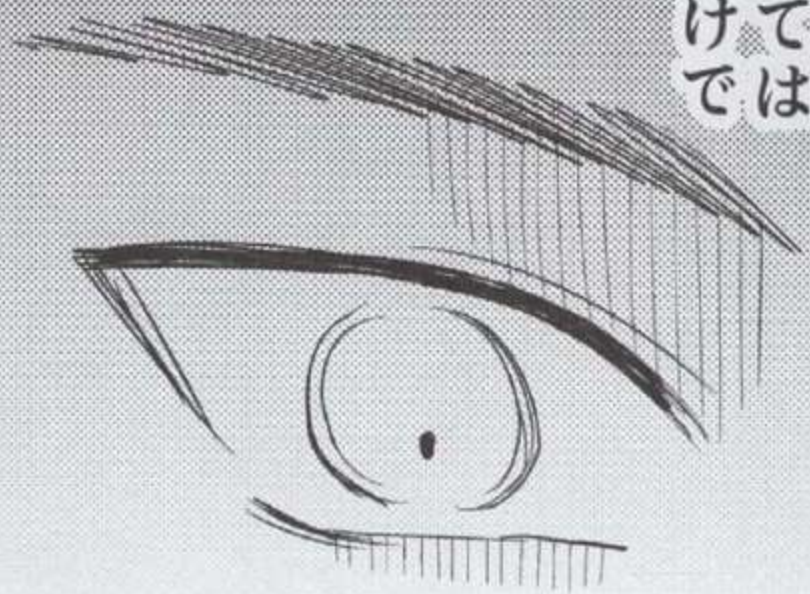
駄目だ

言えない



オレはミカサに関しては  
虚勢を張っているだけで

本当は、内心は、  
驚くほどに憶病だ



一言、

言ってしまったえば  
ミカサは今後オレの行動で  
傷つかないかもしれないが

それでも、言った時に  
今まで以上に深く、深く、  
傷つけるかもしれない

それにオレ自身、  
もうミカサの傍にいる事すら  
叶わなくなってしまうかもしれない

耐えられないんだ……

——延々と反復する  
自責の念。

その重圧が増せば増すほど  
どうしてかくも、泥沼に  
溺れてしまいたくなるのだろうか

この状況はいつまで  
続くんだ……？

何も考えない



—— エレンは

何も考えなくていいの



夢に向かってただ  
努力していればいい



私は、それを支える  
だけだから……

駄目だ

オレは……

自制できないまま  
ミカサを傷つける



エレン  
どうしてそんな  
恰好をしているの



何をしていたのか  
ちゃんと言いなさい!!  
か、母さん  
違うんだこれは……



キスはいいのに  
どうしてそれは  
駄目なの？



誰も口に出して  
言わない事なんか

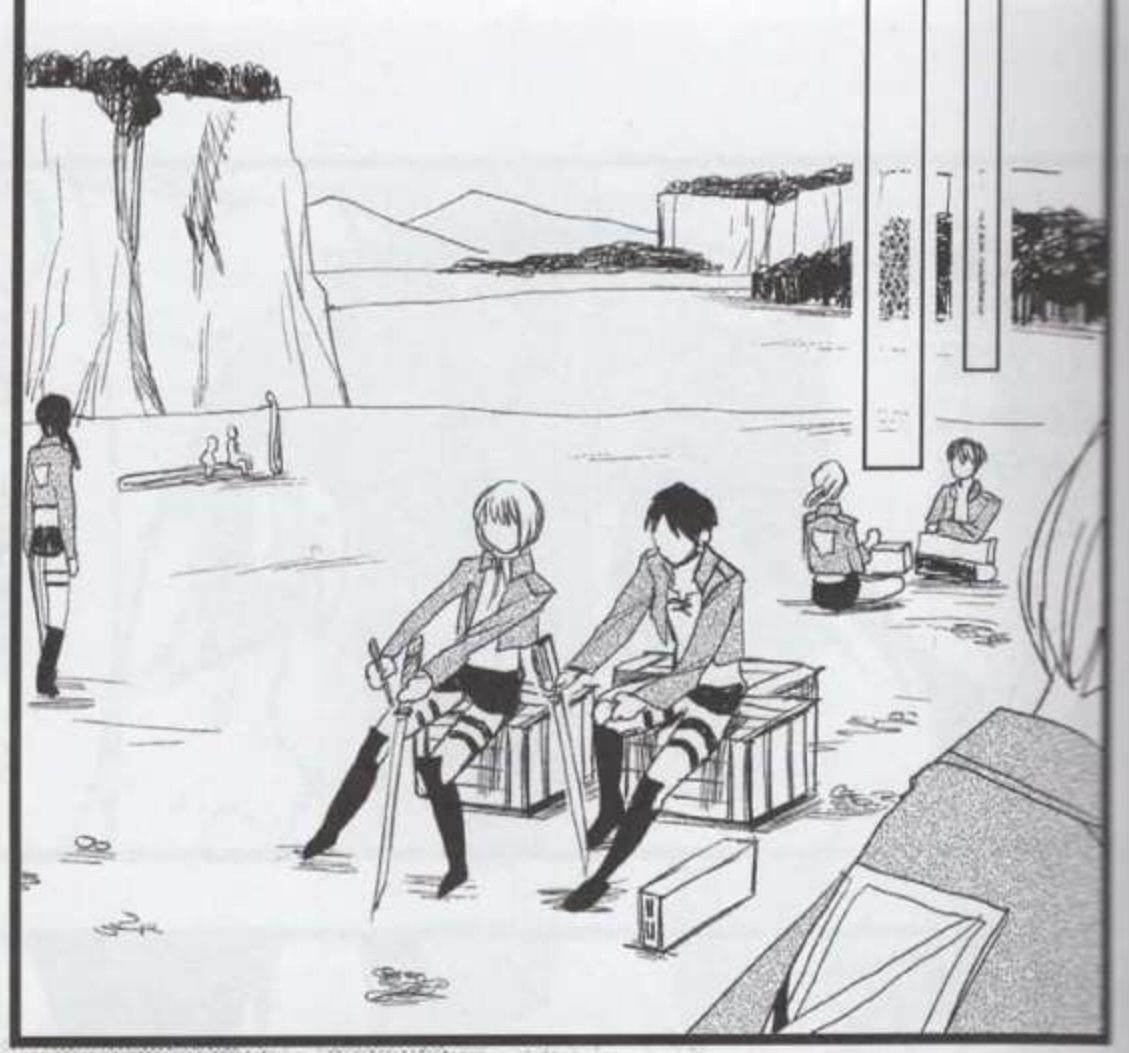
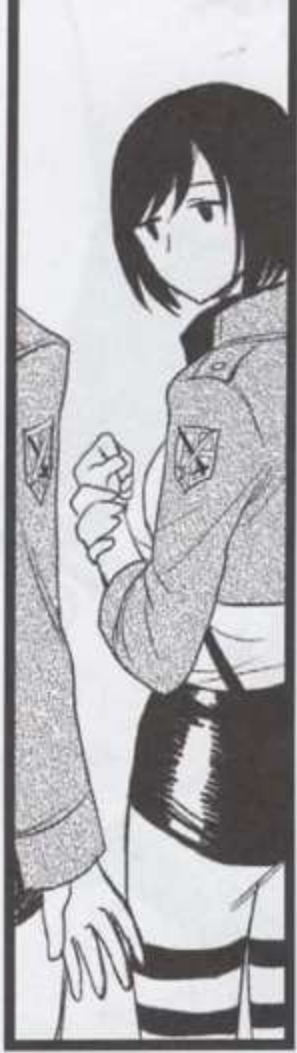
そ、そんな……



わかるわけないだろ！





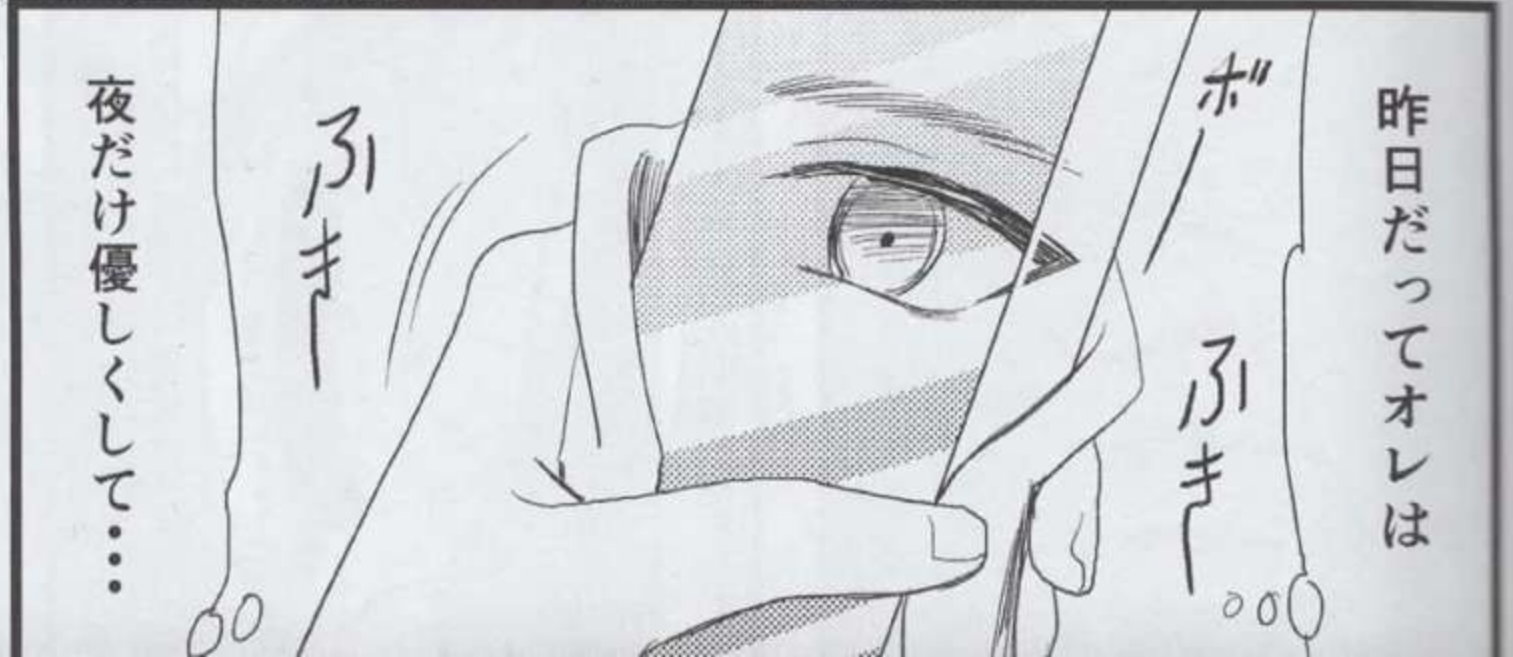


何でミカサは……

オレと目が合うだけで  
あんなに嬉しそうな顔を  
するんだよ……



痛ッ



夜だけ優しくして……

ふき

ホ  
ふき

昨日だってオレは

いってエ

大丈夫  
エレン?!



最近ずっとボーっと  
してるけど平気かい?



破傷風になると  
大変だから  
消毒しないと

ああ



エレン、傷を見せて

は

い  
い



え







.....



いよいよ頭が  
おかしく  
なっちまったのか?!

昼夜問わず  
こんな事ばかり  
考えて……

一体何を  
考えているんだ



オレは……



ああ……



もし、ミカサがオレの事を  
嫌いになったら……？

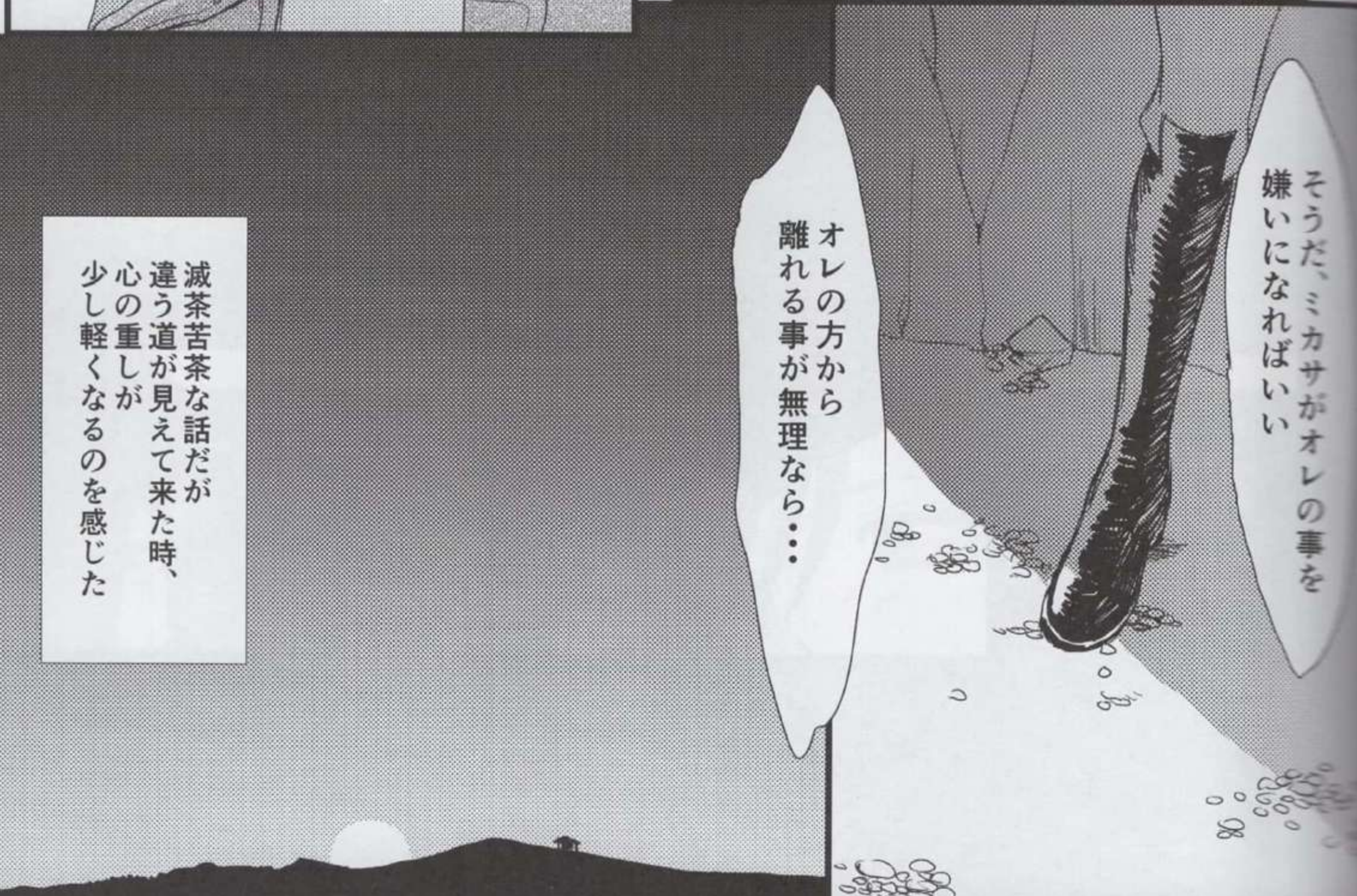
……！



結局、ミカサの事だって  
身体しか考えてないんじゃないのか

最低だ……

最低だ……



そうだ、ミカサがオレの事を  
嫌いになればいい

オレの方から  
離れる事が無理なら……

滅茶苦茶な話だが  
違う道が見えて来た時、  
心の重しが  
少し軽くなるのを感じた

そして

ミカサに嫌われてしまえば、と  
思ってしまったオレは  
あの言葉を口にしたんだ

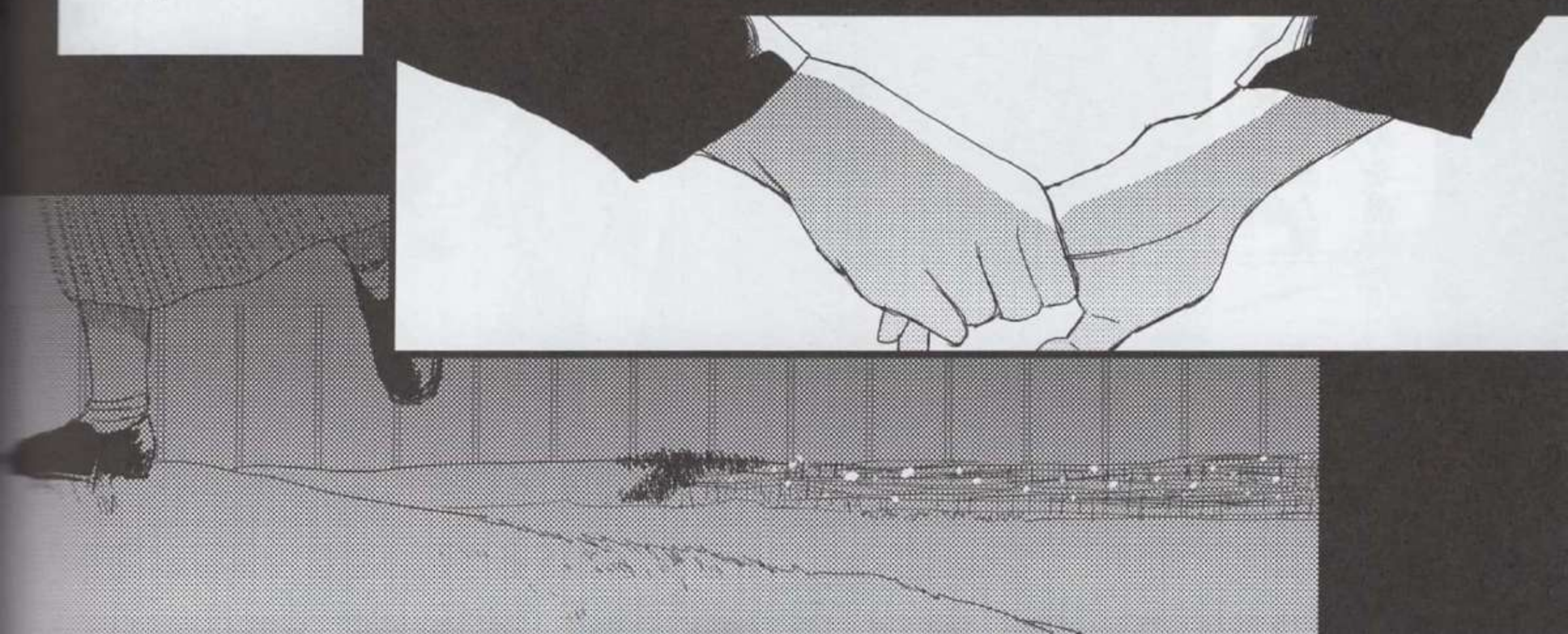
もうここに

しかし、目が覚めた時に  
オレの目に飛び込んできた  
ミカサの表情は、あまりにも辛いもので

…オレは何でもないフリをして  
また、あのむせかえるような  
甘い花の匂いのする場所へ  
ミカサを連れていく事にしてしまった

オレが

えん



ほら、  
ここだよ

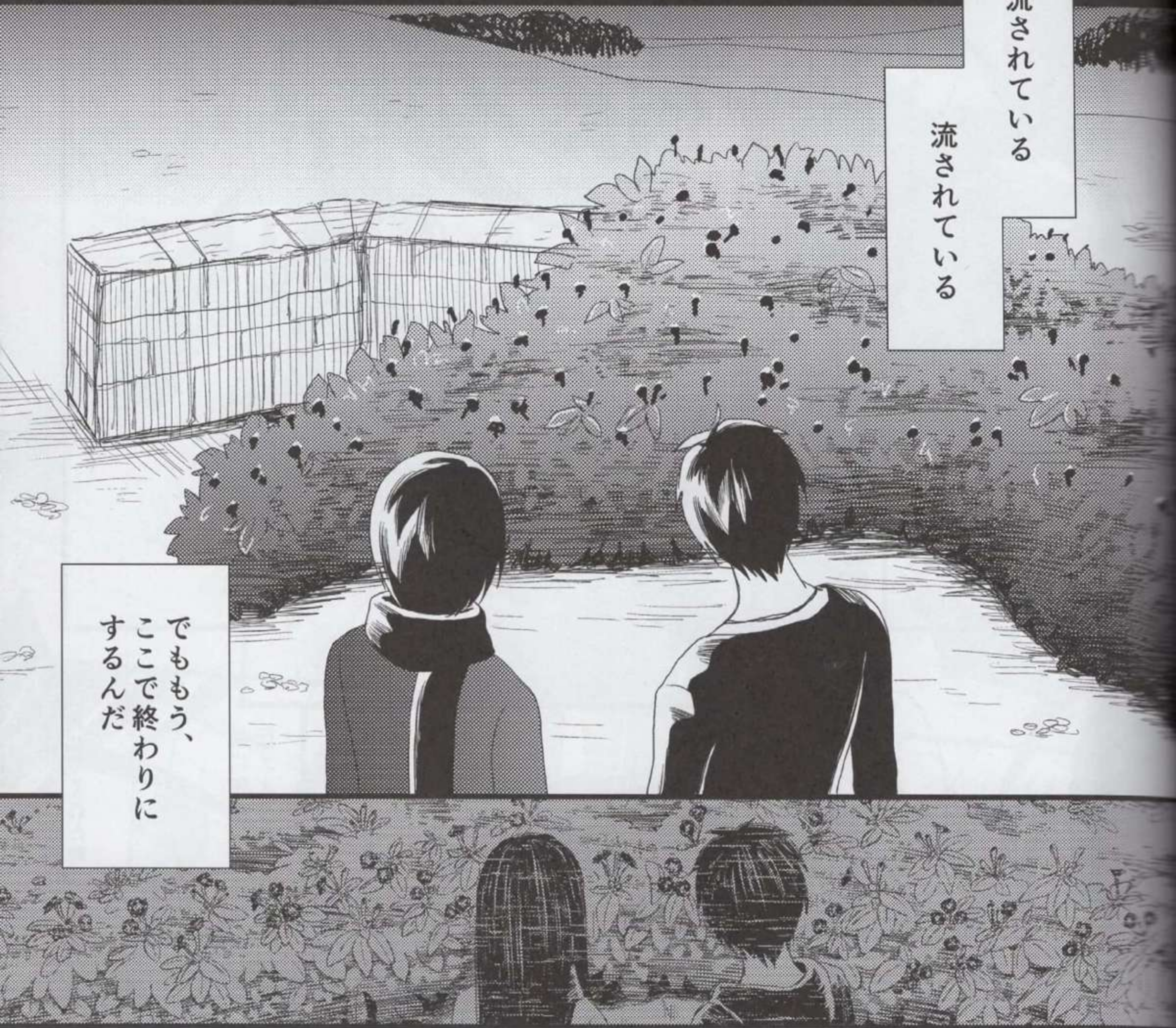
流されている

流されている

でももう、  
ここで終わりに  
するんだ

懐かしい匂い……

ああ、懐かしいな……







ドキ

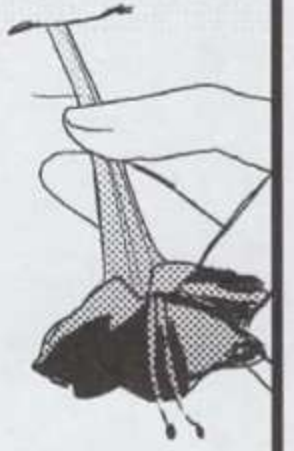
もう、虚勢も何も  
さらけ出してしまえ



甘くない……

昔と同じ……

ちゅう……



……その気持ちは

今も同じ？



「お前の事を、想う」

……

私に何を  
伝えようとした？



エレンは……昔、この花を  
私に見せてくれた時

ああ

好きだよ

好きだ

そうだ

お前の事が頭から  
離れないほど……

だから……

だから？

もう  
おしまい  
しよう

引ん

わからない……  
エレン……わからない……!!



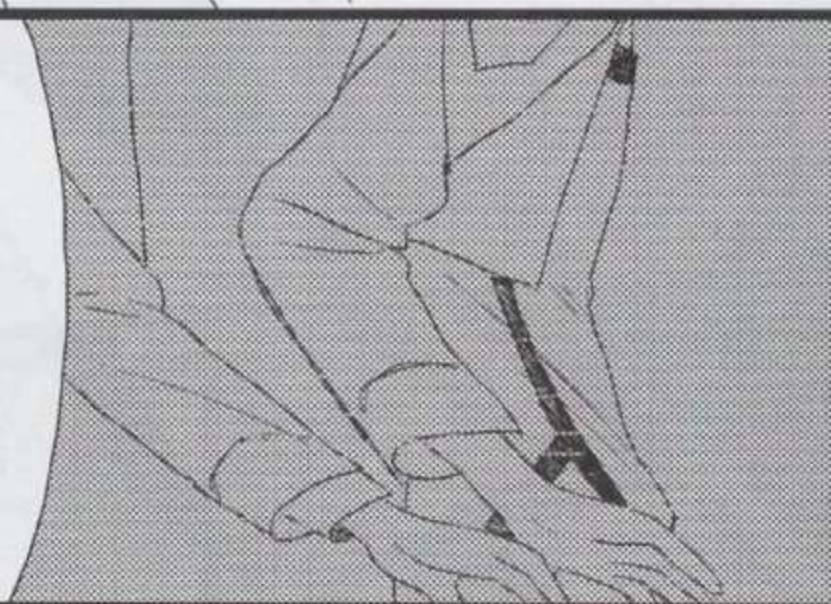
はっきり言ってくれなければ  
私はエレンが何を考えているのか  
わからない……!!

……辛いんだ  
お前の事が気になり過ぎて  
お前が傍に近づくだけで

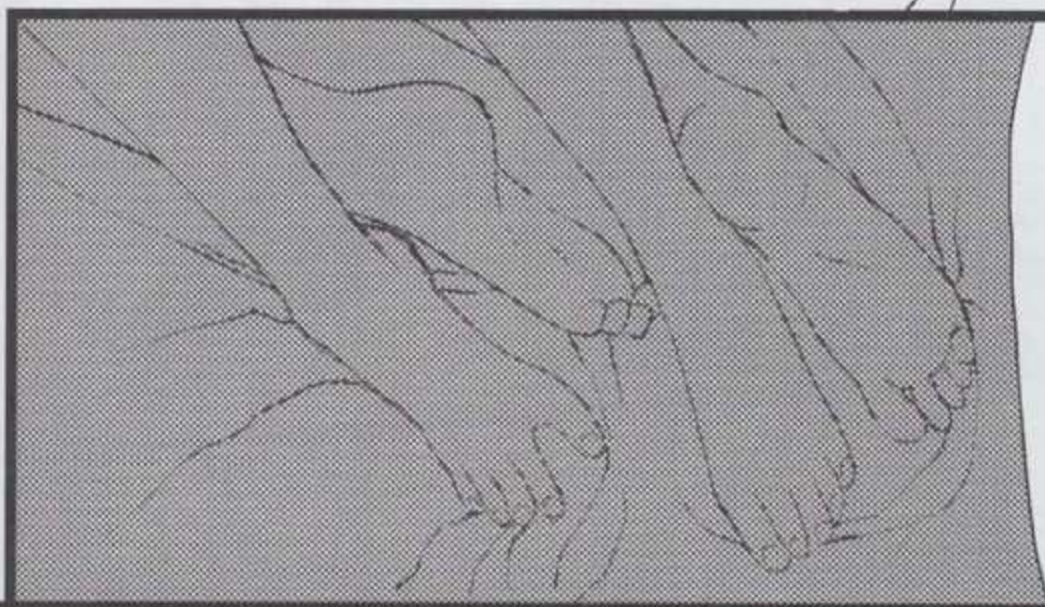
オレは自分が訳わからなくなっちまうんだ



日中は人目が気になって  
上手く立ちまわれねえし



夜は夜で……  
その時だけ優しくするなんて  
おかしいだろ？



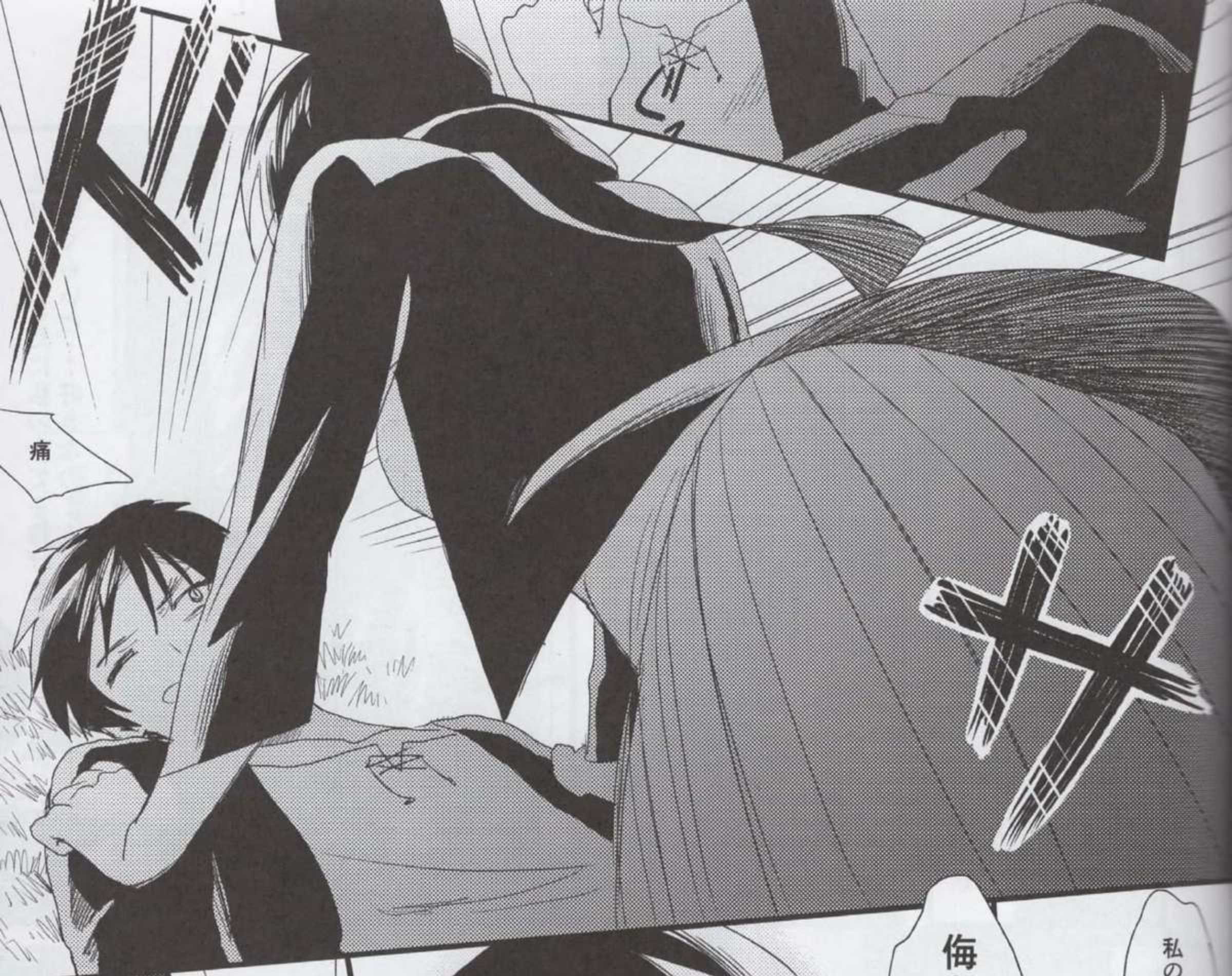
ミカサにもずっと辛い思いを  
させただろうよ

だから、こんな訳のわからない  
オレの事は嫌いになってくれ

オレがお前から離れるのは  
できそうにないから  
せめてお前の方から……

エレンは、私にあなたの事を  
嫌いになれと言うの？





痛



私の気持ちを...

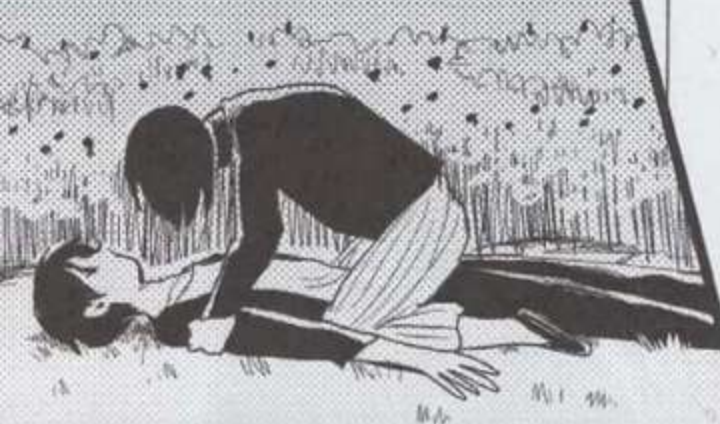
悔らないでほしい

!!

私があなたに  
命を救われて...

一緒に家に帰ろうって  
言ってくれた時...

どれほどに私の魂が  
揺さぶられたか...



私は……あなたに私の全てを捧げても  
いいくらいに……好きなの……

大げさでなく、私は……  
あなたの事を心の底から  
愛している

嫌いになれる訳が  
ないくらいに  
愛している……

ホロ  
ホロ

愛しているの……

ひくっ

エレンが……本当に私の事が嫌いで  
……殺したいくらいに嫌いなら……

私はあなたの為に  
あなたの傍から離れよう

でも、エレンの本当の気持ちは  
どうなの……？

……！

エレンは嘘をつくと  
耳が赤くなるから……

あなたの本心を聞くまで  
嫌いになってくれという  
さっきの言葉は信じられない……

オレは馬鹿だ



最低で大馬鹿者だ

オレはただ、ミカサを愛する責任から  
逃れようとして、自分勝手に思いあがって  
ミカサの気持ちがないがしろにしたんだ



ミカサの為だと言っておきながら  
肝心のミカサの気持ちは  
微塵も考えずに……!

オレは……

オレは……



駄目……  
私は感情的に  
なりすぎた

少し冷静になるまで  
頭を冷やしてくる



ま


まてっ




冷静になる必要は

ねえよ……






好きだ…



お前の事が  
離れない

いつになっても  
頭から



出逢った頃から…

ずっと…ずっと昔から…



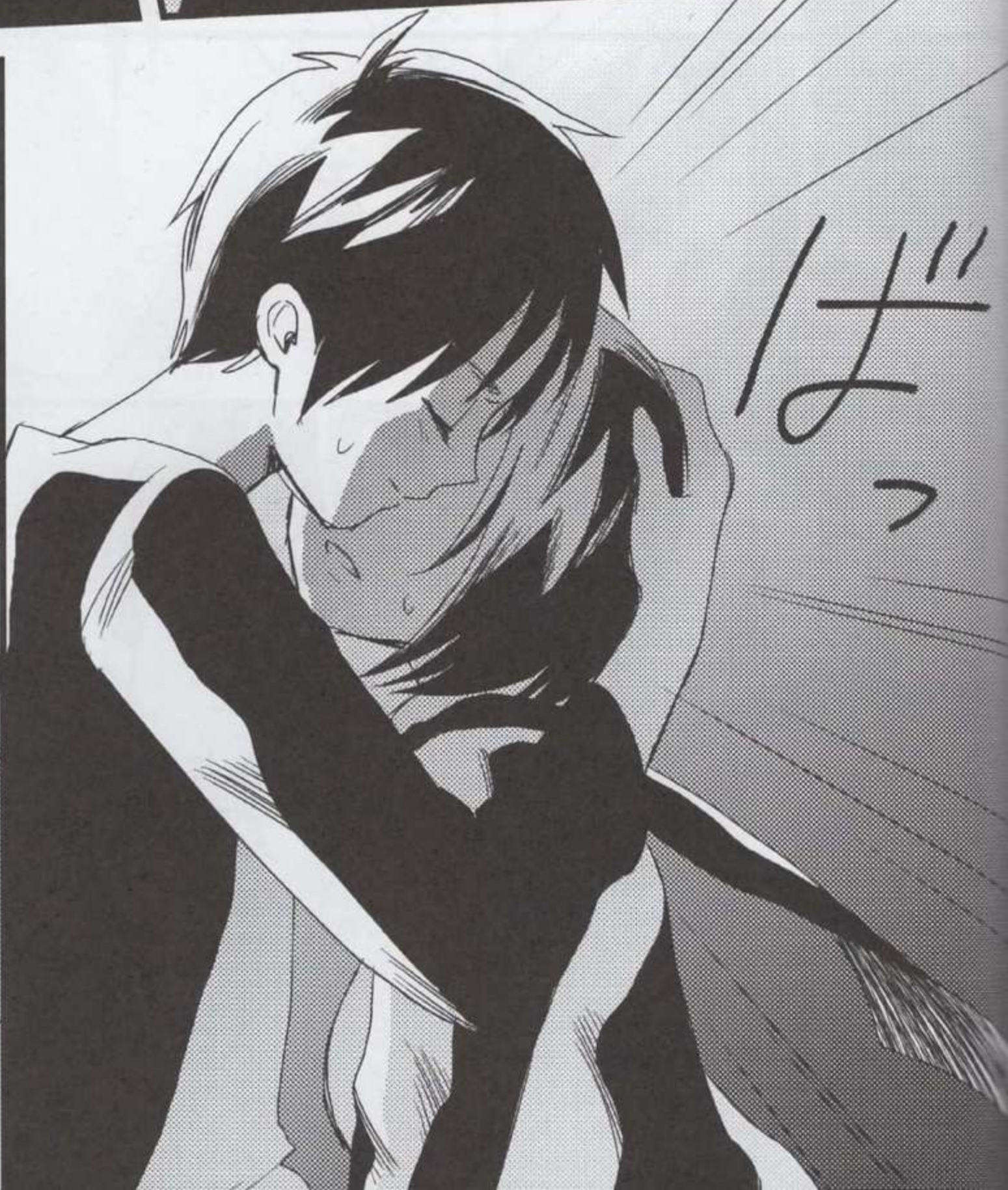
嫌いになってくれなんて

嘘だ...

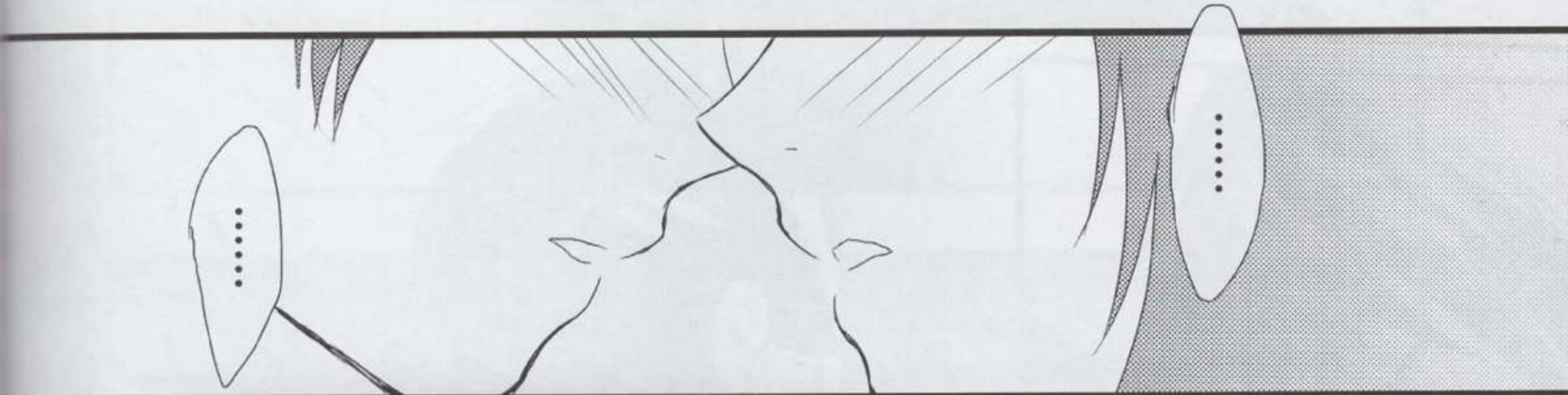
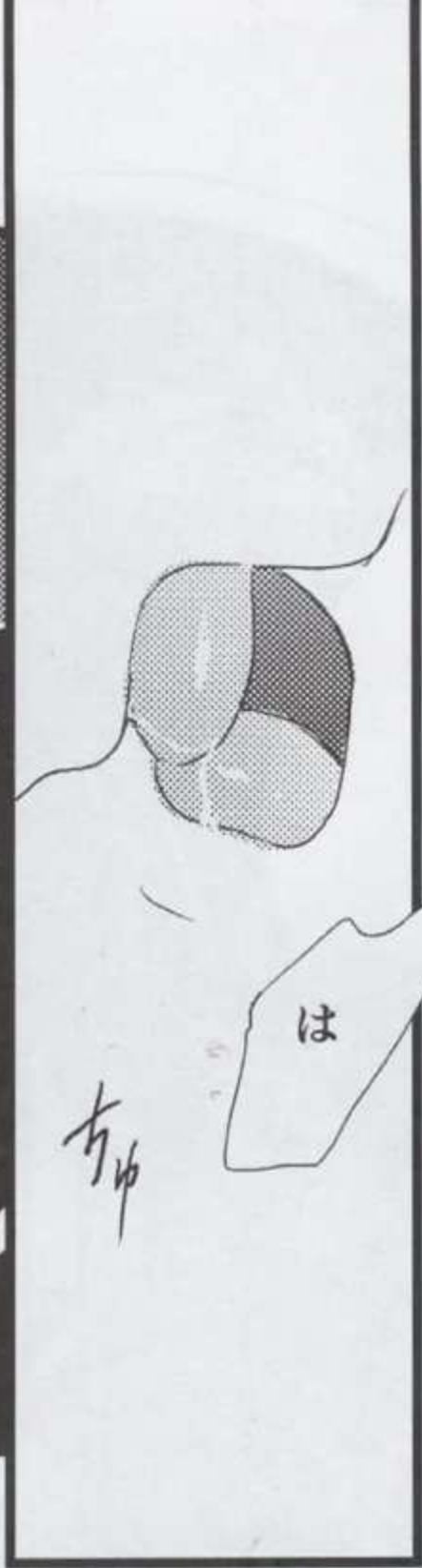
ハン...



.....



びび  
っ



エレン……

ミカサ……

オレは今まで、数々の  
身勝手をした

本当にすまない……

許してくれ……



……

大丈夫

大丈夫だよエレン

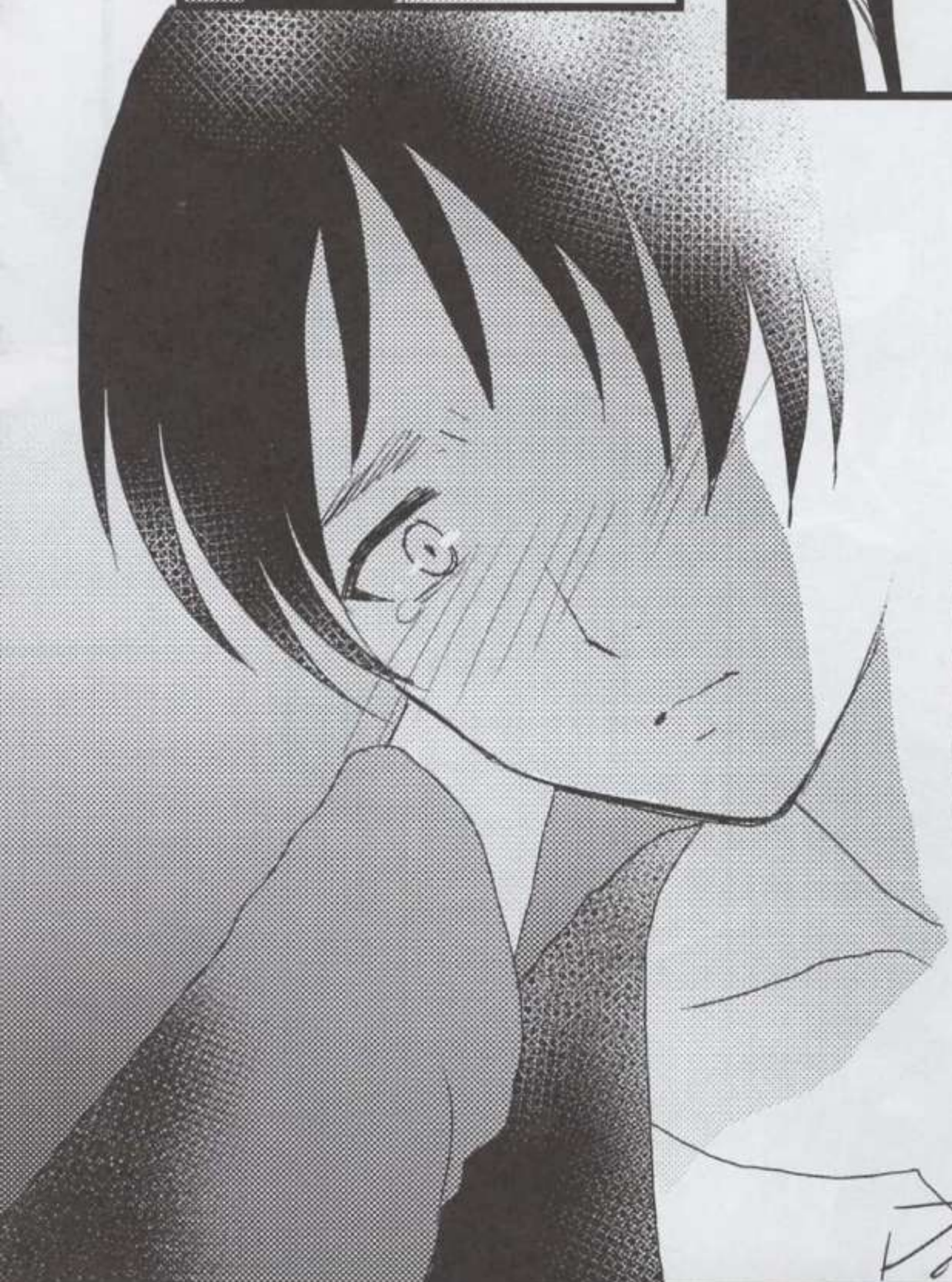


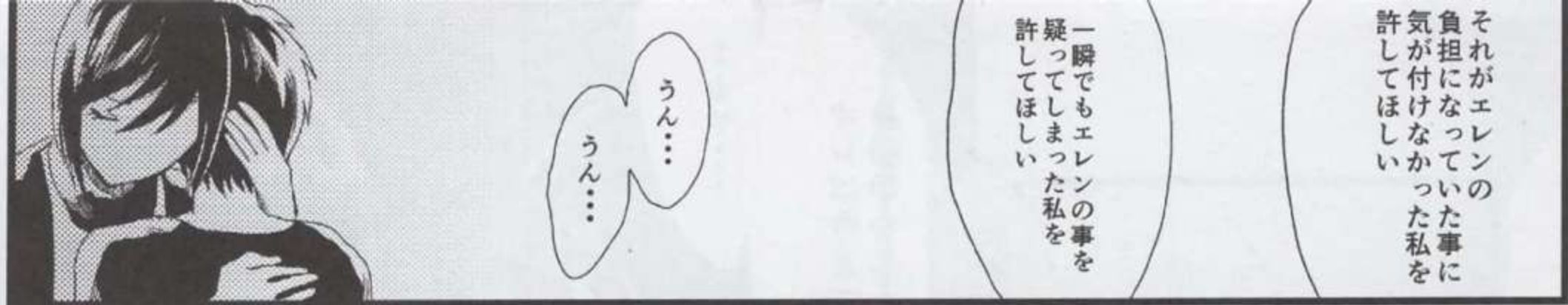
私も……エレンがそんなに  
苦しんでいた事に  
気付けず悪かった……

……私は、エレンが  
昼と夜で違うから  
本当に私の事を好きでいて  
くれているのか  
わからなくて……

疑ってしまった

そして、愛されているのを  
確認したいが為に  
エレンを求めすぎた





それがエレンの  
負担になっていた事に  
気が付けなかった私を  
許してほしい

一瞬でもエレンの事を  
疑ってしまった私を  
許してほしい

うん……

うん……



エレンは……  
無理をしなくていい

私が近くに居て苦しいのならば  
エレンが苦しくなくなるまで  
少し遠くで待つ

ずっと待つ……

私は待つ……

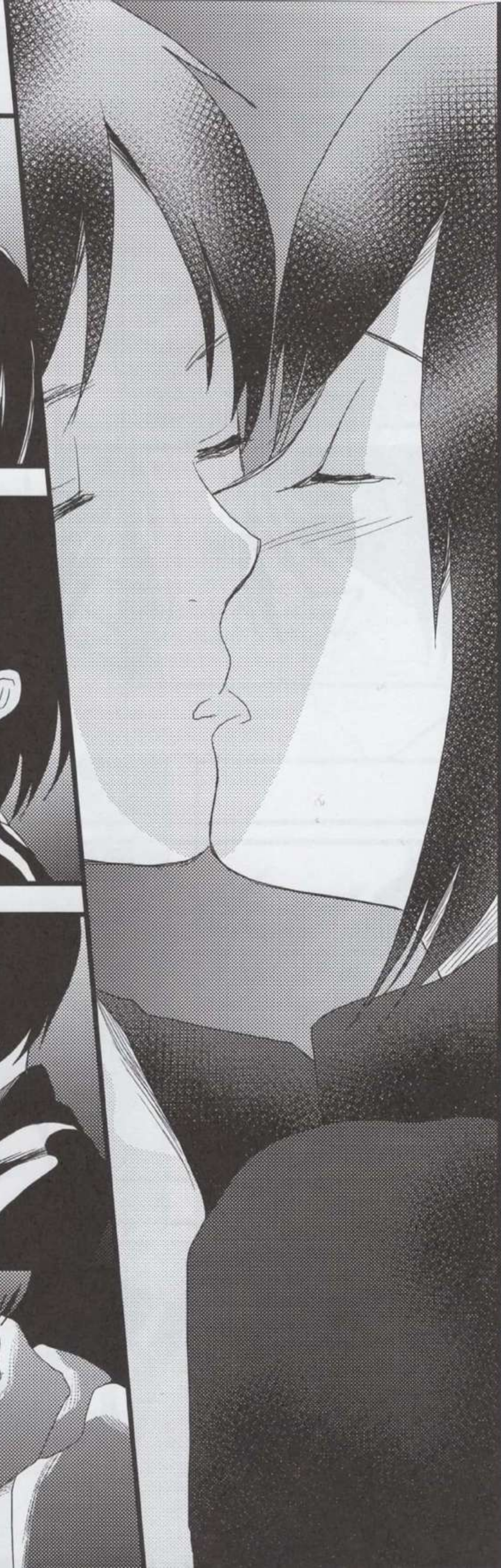


だから……

ぎゅ!

これからも好きで  
いさせて





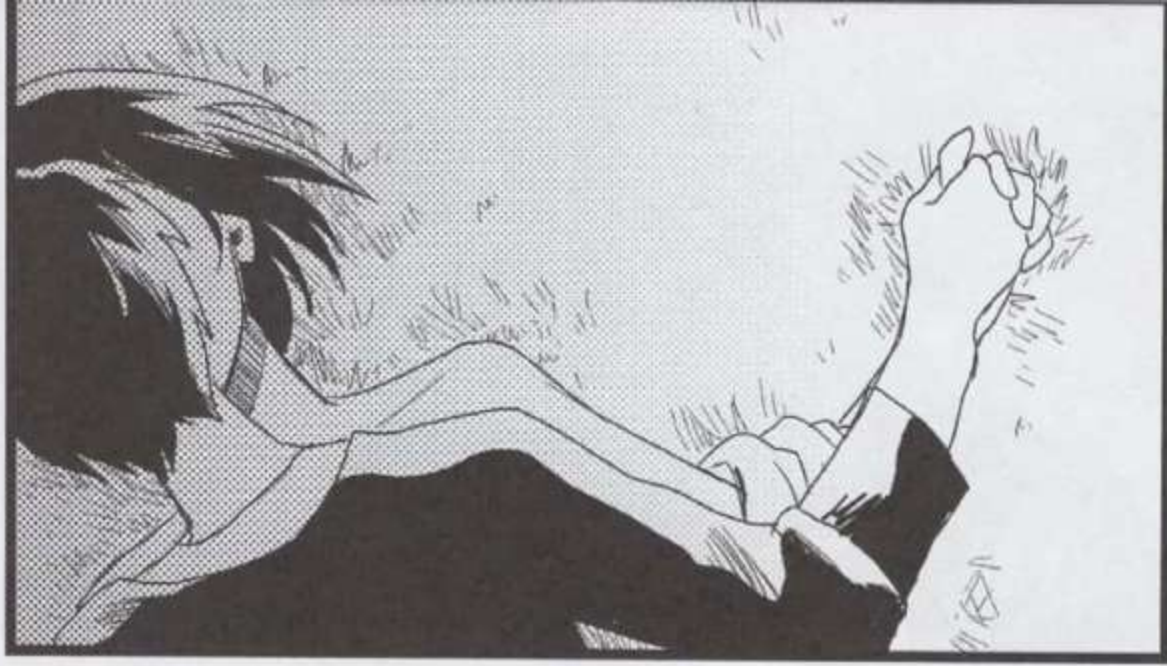
こんな愛し方しか  
知らなくて

ごめんね……

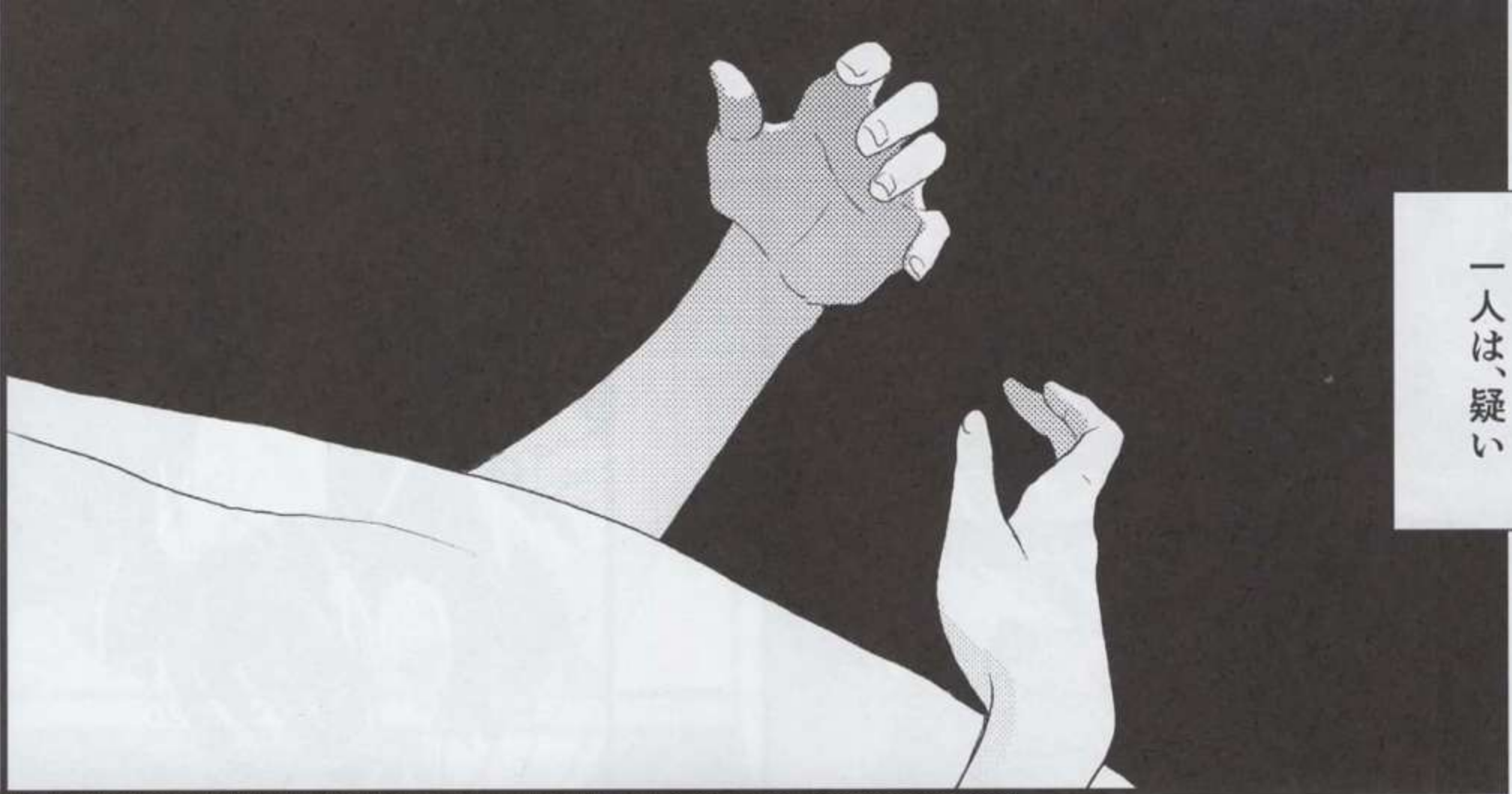
……謝るなよ

オレも  
それしか

知らないんだ








一人は、疑い

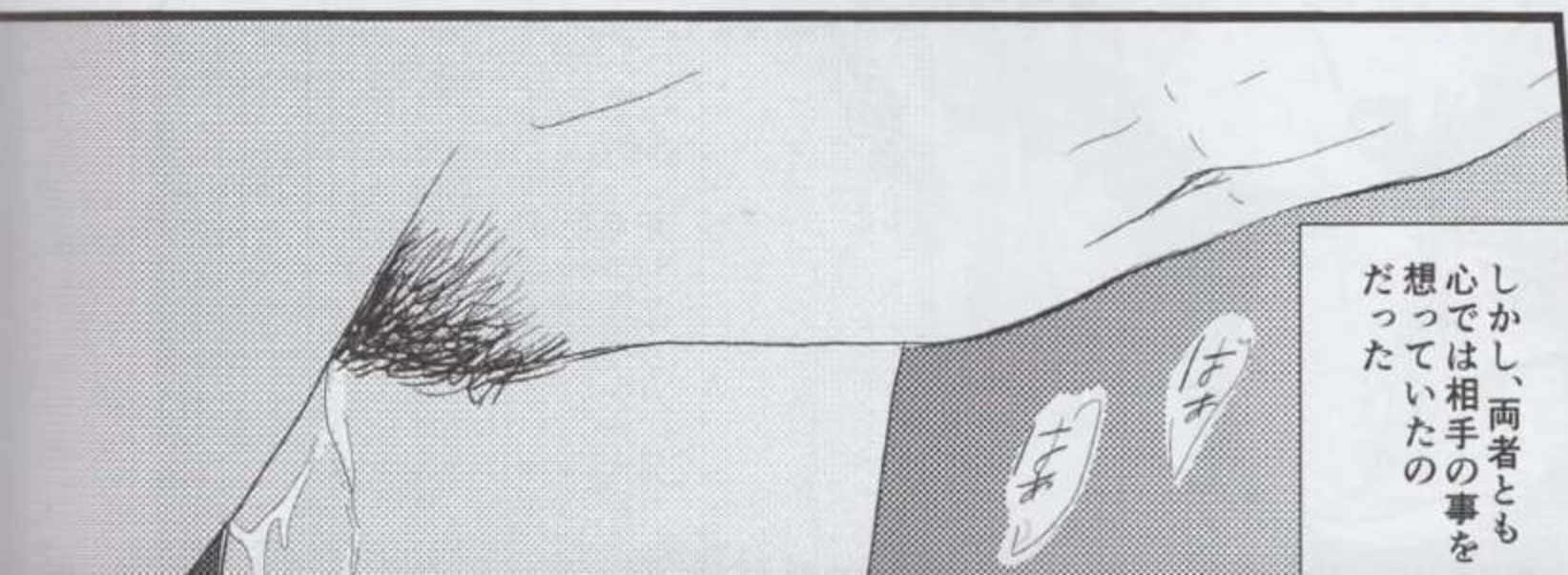


あ



もう一人は、臆病さを  
露呈した

ぷっ



しかし、両者とも  
心では相手の事を  
想っていたの  
だった



まるでオシロイバナは  
二人にはじめて見つか  
った時から  
二人がこうなる事を  
予見していたように

シガンシナとトロストの大地に  
群生しているのであった





【白粉花】オシロイバナ  
オシロイバナ科の多年草  
花は夕方開き、芳香がある。

花言葉  
「臆病」  
「疑いの恋」  
「あなたを想う」

この度は稚拙な本書をお手に取ってくださり、誠に有難うございました。

割と長めのすれ違いのお話でした。  
当初予定していた発行日から結構遅れてしまい申し訳ありませんでした。

唸ったり頭を傾げたりしながら描いていたのですが  
少しでも楽しんで頂けたら幸いです。

エレンが優柔不断な感じになっちゃってすみませんでした・・・。  
エレンは初期の死に急ぎ野郎な所も、最近の丸くなった感じも好きです。  
なのでそういう所をもっと上手く捨てるようになりたいです・・・

それにしてもエレミカは可愛いですね。  
原作を読む度に可愛くてたまらなくて、一巻しか読まないぞ！って意気込んでも  
ついつい最新刊まで流して読んでしまいます。最近のミカサちゃんは特にべらぼう可愛い・・・！

エレミカの萌えが止まらないので今後もエレミカで活動予定です。  
お見かけの際はどうぞ、宜しくお願い致します。

ここまでご覧下さりありがとうございました！



冷静になる必要は

ねえよ……

2014/05/04  
Attack on titan Fanbook  
Ellen x Mikasa

Poritabe. /Shirihagi Gomame